

—  
—  
—  
KANAZAWA  
COLLEGE  
OF ART

—  
—  
—  
2016\_2017  
—  
—  
—  
—  
—  
—  
—  
—  
—

—  
—  
—  
金沢美術工芸大学  
—  
—

# ご挨拶

Message



金沢美術工芸大学 学長 前田 昌彦  
President MAEDA Masahiko

## 開学70周年、さらなる未来を拓く美と知の創造拠点

本年開学70周年を迎える金沢美術工芸大学は、これまで美術、デザイン、工芸、芸術学の分野において国内外で活躍する数多くの有為な人材を輩出し、我が国の芸術文化の創造とユネスコ創造都市金沢の発展に重要な一翼を担って来ました。公立大学法人としての本学は、本年度より第2期中期目標、中期計画を新たに掲げ、地域に根差し世界に開かれた大学として、未来社会を拓く個性豊かなクリエイターを育成する教育を実践し、国際的に展開する研究の推進を目指しています。

北陸新幹線開通によって首都圏との交流が活発になっている金沢は、藩政時代より蓄積された歴史的文化遺産と現代美術館が発信する先端的な情報が織りなす綾によって、世界的にも稀有なコントラストのある文化環境が形成され、訪れる人々の注目を浴びています。本学で学ぶ学生は日常生活においてこの金沢の地ならではの文化を体感し、芸術に理解のある金沢市民とも深く交流して忘れ得ぬ学生時代を過ごしています。

本学のすべての学生は専攻を問わず、美術、デザイン、工芸の全分野の実技を体験したうえで、さらに専門的な知識や技能を磨き卒業制作・論文へと学びの集大成を行います。その過程において全国的な公募展に挑戦し大賞などを受賞する学生も多く、本学では公募展の出品料支援のほかグループ展、個展の開催費支援を行うなど学生の自主的な発表活動を奨励しています。毎年度末に優秀な成果を得た学生にKANABIクリエイティブ賞を授与し顕彰を行っています。

本学は地域や企業からの研究委託を受けて、アート・プロジェクトや商品開発を活発に行うことでも高い評価を受けており、学生の主体的学びの実践の場であると同時に研究成果の社会還元機会として積極的な活動を続けています。また、フランス、ベルギー、スウェーデン、アメリカ、中国の協定大学との交換留学や学術交流を実施して、学生の視野の拡大や大学の研究水準の向上を図っています。

このような学生の学びや創作活動の真の姿は、広報媒体のみを介して伝えることは容易ではありません。学生が日々の試行 錯誤の苦しみを経て自身の内なる創造力に会い、オリジナリティーを具現化してゆくプロセスにおいて、人と協同して作り上げる喜びや他者への敬意を学び、人と人が真摯に研鑽することで生まれる創造のエネルギーに満ちている場が金沢美術工芸大学です。

# contents

04	沿革 history		24	工芸 craft	
05	大学憲章と活動指針 mission statement and mission policies		26	一般教育等 liberal arts	
06	教員構成 faculty structure		27	基礎科目 basic subjects	
07	大学の組織と入学者 structure and students		28	大学院/修士課程 master programs	
08	教員の紹介 faculty's profile		29	ファッションデザインコース fashion comprehensive	
10	日本画 japanese painting		30	大学院/博士後期課程 doctoral programs	
12	油画 oil painting		31	美術工芸研究所 research institute of art	
14	彫刻 sculpture		32	社会連携センター public collaboration center	
16	芸術学 aesthetics & art history		33	学生生活 college life	
18	視覚デザイン visual communication design		34	国際交流 international exchanges	
20	製品デザイン industrial design		36	卒業後の進路・活躍 postgraduate vocations	
22	環境デザイン interior & architectural design		38	附属図書館/アクセス library/access	

## 沿革

History

1946 昭和21年	●本多町3番丁（現出羽町）に金沢美術工芸専門学校（本科3年、予科1年制、美術科45人、陶磁科30人、漆工科30人、金工科15人、計120人）を設立
1950 昭和25年	●金沢美術工芸短期大学（3年制、美術科45人、工芸科75人、計120人）を設立
1955 昭和30年	●金沢美術工芸大学〔4年制、美術学科（絵画専攻・彫刻専攻）40人、産業美術学科（商業美術・工業意匠）60人、計100人〕を設立
1965 昭和40年	●美術科定員を1学年40人から55人に増員、商業美術、工業意匠を商業デザイン専攻、工業デザイン専攻に変更 ●産業美術学科に工芸・繊維デザイン専攻（15人）を設置
1966 昭和41年	●教職課程（正規・聴講）を設置 ●図書館及び実験研究棟が竣工
1970 昭和45年	●伝統工芸聴講生制度を設置（～2011）
1971 昭和46年	●博物館学課程を設置
1972 昭和47年	●美術工芸研究所を設置 ●小立野5丁目11番1号に新校舎が完成（敷地面積57,242.88㎡、建物面積15,026.93㎡）
1973 昭和48年	●研究生制度を設置 ●市民講座を開設（～2006）
1974 昭和49年	●工芸・繊維デザインを工芸デザイン専攻に変更
1977 昭和52年	●市民工房を開設（～2004）
1979 昭和54年	●大学院修士課程（絵画・彫刻専攻、産業デザイン専攻）を設置
1980 昭和55年	●大学院棟が完成（鉄筋コンクリート造3階建、建物面積3,366.85㎡） ●夜間教養講座を開設（～1991）
1985 昭和60年	●石彫棟を新築
1986 昭和61年	●美術学科に芸術学専攻（10人）を設置 ●美術工芸研究所棟（4階建、建物面積3,364.7㎡）、美大ホール（500席、建物面積1,331.01㎡）が完成
1990 平成2年	●大学院（芸術学専攻修士課程）を設置

1991 平成3年	●工芸デザイン専攻定員を1学年15人から20人に増員
1992 平成4年	●工芸実習棟（3階建、建物面積3,610.19㎡）が完成
1993 平成5年	●共通造形センターが発足（～2010）
1996 平成8年	●学科再編により美術科（日本画専攻・油画専攻・彫刻専攻・芸術学専攻）65人、デザイン科（視覚デザイン専攻・製品デザイン専攻・環境デザイン専攻）60人、工芸科20人が発足
1997 平成9年	●大学院博士課程（美術工芸研究科博士後期課程）を設置
1998 平成10年	●国際的芸術家滞在制度を発足（～2006） ●芸術学専攻、デザイン科3専攻が推薦入学を実施
2000 平成12年	●大学院修士課程再編により（絵画・彫刻・芸術学・工芸・デザイン専攻）の5専攻が発足 ●図書館棟増改築工事（増築部3階建、建物面積2,224.83㎡）が完成
2001 平成13年	●運営諮問会議を設置（～2010）
2005 平成17年	●大学院修士課程（デザイン専攻）にファッションデザインコースを設置 ●美術工芸研究所に産学連携センターを設置
2006 平成18年	●美術工芸研究所を再編し、教育研究センター、地域連携センター、産学連携センター、国際交流センターの4センターが発足
2007 平成19年	●美術工芸研究所を造形芸術総合研究所に改称 ●芸術学専攻定員を1学年10人から15人に増員
2008 平成20年	●財団法人大学基準協会の大学基準適合認定
2010 平成22年	●アートギャラリー開設 ●公立大学法人金沢美術工芸大学に移行 ●造形芸術総合研究所を美術工芸研究所に改称
2011 平成23年	●問屋まちスタジオ開設 ●アートベース石引開設
2014 平成26年	●柳宗理記念デザイン研究所開設

## 大学憲章と活動指針

Mission Statement and Mission Policies

### 大学憲章 Mission Statement

金沢美術工芸大学は、1946年、戦後の混乱と虚脱のなか、学問を好み、伝統を愛し、美の創造を通じて人類の平和に貢献することを希求する金沢市民の熱意により、工芸美術の継承発展と、地域の文化と産業の振興を目指して創立された。

以来、本学は豊かな自然環境と歴史的遺産のなかで、美術・工芸・デザインの分野における個性豊かな教育と学術研究に取り組み、文化都市金沢の発展の一翼を担ってきた。

素材を知り、技を磨き、現代に生きる表現に高めるべく「ものづくりの精神」を尊び、幅広い人間性に裏付けられた理論と技術の彫琢をとおして、芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材を育成し、世界における創造の機会の拡大と多様化に資するために、本学は知と創造の拠点となることを目指す。

### 活動指針 Mission Policies

#### 〈創作の意欲と能力を育てる教育の推進〉

Creative Potential

地域の文化資源を活用し、「手で考え、心でつくる」をモットーに創造力を高め、人間味あふれる個性と倫理を涵養し、未来社会を拓くクリエイターの育成を目指す。

#### 〈質の高い研究とオリジナリティの追求〉

Professional Individuality

深く芸術の神髄を探究し、諸分野における卓越した知識と技術の継承によって、固有の芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化の発信母体となる。

#### 〈地域と世界に貢献する芸術活動の展開〉

Public Contribution

市民から愛され、尊敬される芸術文化教育の中核を担い、地域社会の活性化と人々の幸福を願い、地球社会の平和と共存に貢献する。

#### 〈自立した大学の運営と公共性を重んじる組織の発展〉

Independent Institution

社会の変化に迅速かつ的確に対応できる教育体制と事務組織を構築し、自己決定、自己責任に基づく自主自立の大学運営を目指す。

## 大学の環境

Environment

藩政期に人口12万を擁した金沢の地には、城下町という名にふさわしく、城郭を中心とした都市構成、軒を連ねる町屋建築、優美な茶屋街、歴代藩主及び名家ゆかりの社寺、希少な伝統工芸の数々が、今も当たり前前の光景として生活の中にあります。時代は明治・大正へ。ここ金沢からも多くの学者や実業家が誕生し、新しい時代の礎となりました。だからこそ、金沢の街は伝統を自然のうちに身に付け、同時に、伝統の中から最先端のアートを創出するエネルギーも持ち合わせているのです。

金沢美術工芸大学はそうした金沢の地にあります。歴史上、この地の九谷焼や漆器が世界に名をとどろかせたように、金沢美術工芸大学とその卒業生は国内及び世界の各地で繰り広げられる様々なアートシーンのただ中にいます。金沢美術工芸大学は今年で70年目を迎えますが、絶えず新しいアートの境地を探索し続けています。金沢の街はその縮図ともいえるでしょう。この街では、多くの美大生が街と一体となり、ユニークな活動を展開しています。今まさに、私たち美大生がこの街の新しい歴史を創り出しているのです。



## 教員構成

Faculty Structure

□ 学長 前田 昌彦

□ 教育研究審議会委員

教務学生担当理事 山崎 剛  
学長補佐担当  
国際交流担当  
点検・評価担当

社会連携担当理事 寺井 剛敏  
社会連携センター長

入試担当 石田 陽介  
教務担当

広報担当 角谷 修  
附属図書館長  
図書館担当

大学院運営・改革担当 田中 信行  
美術工芸研究所長

学生支援担当 桑村佐和子  
研究倫理担当

□ 客員教授

土屋 禮一 (日本画)  
木下 晋 (油画)  
小清水 漸 (彫刻)  
木村 三郎 (芸術学)  
宮崎 晋 (視覚デザイン)  
早川 和良 (視覚デザイン)  
平野 拓夫 (製品デザイン)  
妹島 和世 (環境デザイン)  
西沢 立衛 (環境デザイン)  
藤原 大 (ファッションデザイン)  
伊藤 公象 (工芸)  
久世 建二 (工芸)  
中川 衛 (工芸)  
山口 道夫 (工芸)

学科等	専攻	教員数
美術科	日本画	4
	油画	6
	彫刻	5
	芸術学	5
デザイン科	視覚デザイン	5
	製品デザイン	5
	環境デザイン	5
工芸科		10
一般教育等		8
大学院		7
	計	60

## 審議機関等の構成

□ 法人役員

(1) 理事会

理事長	前田 昌彦	金沢美術工芸大学 教授
理事 (教務学生担当)	山崎 剛	金沢美術工芸大学 教授
理事 (社会連携担当)	寺井 剛敏	金沢美術工芸大学 教授
理事 (企画総務担当)	宮本 伸一	金沢芸術創造財団 理事長
理事 (経営改革担当)	溝口 晃	金沢文化振興財団 理事長

(2) 監事

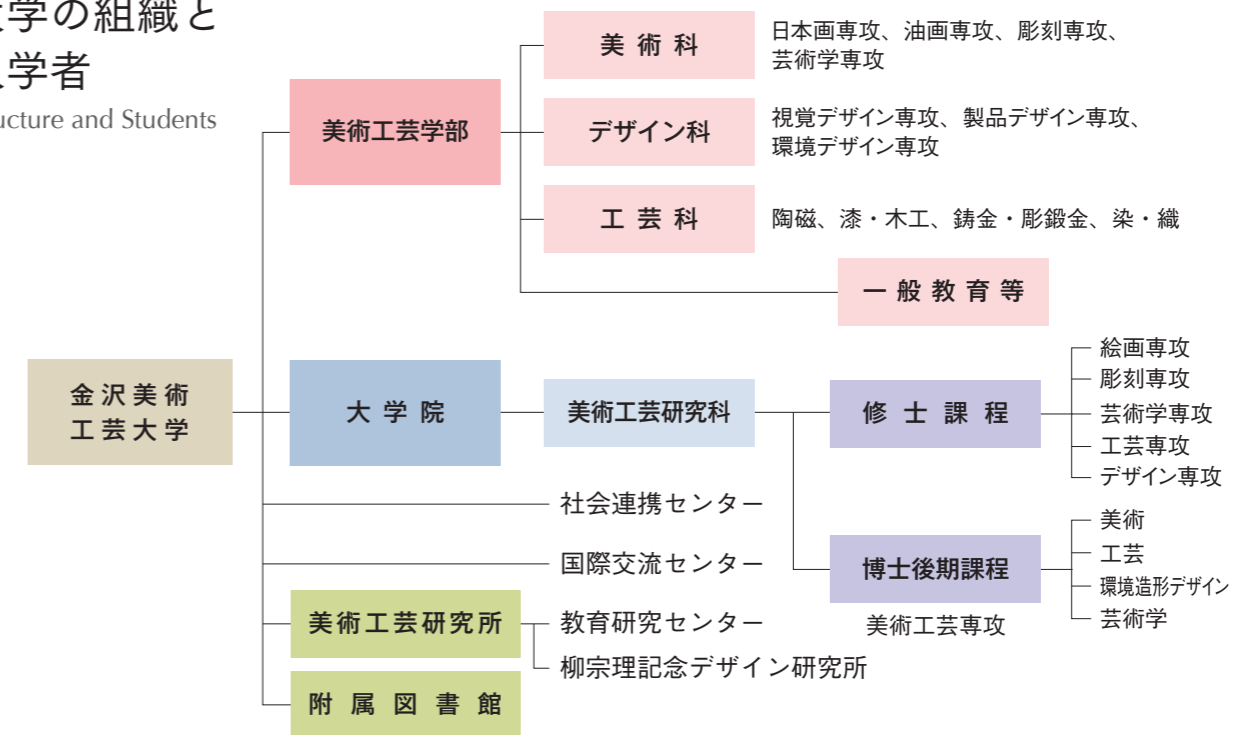
監事	井上 政造	公認会計士
監事	織田 明彦	弁護士

□ 経営審議会

議長	前田 昌彦	公立大学法人金沢美術工芸大学 理事長
委員	山崎 剛	公立大学法人金沢美術工芸大学 理事
委員	寺井 剛敏	公立大学法人金沢美術工芸大学 理事
委員	宮本 伸一	公立大学法人金沢美術工芸大学 理事
委員	溝口 晃	公立大学法人金沢美術工芸大学 理事
委員	饗庭 達也	三谷産業株式会社 代表取締役社長
委員	浦上光太郎	金沢市社会福祉協議会 代表理事会長
委員	北村 哲志	金沢商工会議所 副会頭、ホクショー株式会社 代表取締役会長
委員	中川 衛	金沢市工芸協会 理事長
委員	前田 純一	株式会社北國銀行 専務取締役 (指定金融機関)

## 大学の組織と入学者

Structure and Students



### 学部 (定員)

学 科	専 攻	1年	2年	3年	4年	計
美術科	日本画	15	15	15	15	60
	油画	25	25	25	25	100
	彫刻	15	15	15	15	60
	芸術学	15	15	15	15	60
デザイン科	視覚デザイン	20	20	20	20	80
	製品デザイン	20	20	20	20	80
	環境デザイン	20	20	20	20	80
工芸科		20	20	20	20	80
計		150	150	150	150	600

### 修士課程 (定員)

専 攻	1年	2年	計
絵画	10	10	20
彫刻	4	4	8
芸術学	4	4	8
工芸	9	9	18
デザイン	10	10	20
計	37	37	74

### 博士後期課程 (定員)

美術工芸専攻	1年	2年	3年	計
	7	7	7	21

### 入学試験結果

学 科	専 攻	平成 28 年度							平成 27 年度								
		一般選抜			推薦入試				入学者	一般選抜			推薦入試				入学者
		募集人数	志願数	倍率	募集人数	志願数	倍率	募集人数		志願数	倍率	募集人数	志願数	倍率			
美術科	日本画	15	105	7.0	—	—	—	15	15	116	7.7	—	—	—	15		
	油画	25	147	5.9	—	—	—	25	25	135	5.4	—	—	—	25		
	彫刻	15	66	4.4	—	—	—	15	15	67	4.5	—	—	—	15		
	芸術学	10	39	3.9	5	13	2.6	15	10	33	3.3	5	10	2.0	16		
デザイン科	視覚デザイン	18	239	13.3	2	15	7.5	20	18	263	14.6	2	20	10.0	21		
	製品デザイン	18	111	6.2	2	9	4.5	20	18	99	5.5	2	9	4.5	22		
	環境デザイン	18	59	3.3	2	11	5.5	20	18	59	3.3	2	13	6.5	21		
工芸科		20	141	7.1	—	—	—	20	20	153	7.7	—	—	—	23		
計		139	907	6.5	11	48	4.2	150	139	925	6.7	11	52	4.5	158		

(平成28年4月1日現在)

## 教員の紹介

Faculty's Profile

本学の専任教員の数は60名で、それぞれが独立したプロの作家、デザイナー、研究者です。活躍する分野はもちろん年齢も異なりますが、教育に熱い情熱を抱き、才能に溢れ可能性に満ちた若者と付き合うことに大なる喜びを感じています。各専攻から1名ずつ、教員を紹介します。なお、本学の学生数が723名（2016年5月現在、大学院含む）であり、おおむね教員1人が受け持つ学生の人数は約12名という少数教育体制であることを付け加えておきます。



初めての仔育

### 仁志出 龍司 (日本画)

若い時から主に風景ばかりを描いていたのですが、近年は動物もよくモチーフにしています。白山山系沿いの拙宅には多種の野生動物が来るのですが一番のお気に入りにはニホンカモシカです。走ると結構大きな地響音がし、垂直に近い擁壁も軽々と移動する野生の逞しさが有り、人等に出遭ってもあまり怯える事なく堂々としており、ゆったりと立ち去ります。未だ子供だと思っていた若い雌が、子供を連れて来た。

### 大森 啓 (油画)

私は四角いキャンバスにはではなく、描かれるものの形をした変形パネルに絵を描いています。その絵が飾られるとき、描かれたものは画中の背景や額縁を介さず直接壁面を背負うこととなります。その際、壁面を含む「現実空間」と絵の中にある「絵画空間」との間に、ある種のズレが生じます。このズレによって、我々は改めて絵画が平面であるということ、そしてその平面上に「絵画」という高度な文法によって様々な「空間」が構築されるということに気付くのです。私が今歩んでいるのは、絵画の奥深さや広がり、そしてこれからの可能性を証す無数のルート、そのうちの一路に過ぎません。ここで学ぶ学生たちが、未だ証せぬ「絵画」という大きな問いにそれぞれのルートで挑み、やがてかけがえのない独自の表現に至ることを絶えず願っています。



puzzle



赤粒藝術 (台北) : 【氣韻生動 石田陽介人物雕塑展】

### 石田 陽介 (彫刻)

彫刻を始めてかれこれ40年近くになります。現代では彫刻という概念も広がり、様々な表現が試みられていますが、私の表現はもっぱら「人間」像です。この春に縁があって台北で個展を開催することが出来ました。近作を中心に20年程の作品を一堂に並べてみると自分でも気付かない、私の創作の核(コア)が見えて来た気がします。創作は一つひとつの積み重ね。ただ前を見て進むだけでなく、折りにふれ自分を傍観して自身を再発見する。そこに芸術のもう一つの意味があるのかもしれない。

### 星野 太 (芸術学)

今年度より、芸術学専攻の教員として美学・芸術学を担当することになりました。美学は、美・芸術・感性の三つを柱とする、良く言えば幅広い、悪く言えばどこか曖昧な学問領域です。通常、「美学」は哲学の一部門と見なされることが多いので、具体的な作家や作品の研究は、それとは区別して「芸術学」と呼び分けられることもあります。

わたし自身、これまで美学・芸術学という学問の「節操のなさ」を地で行くかのように、著作や論文の執筆・翻訳、カタログや美術雑誌への寄稿、さらには同世代のアーティストとの協働作業を並行して行ってきました。おそらく多くの領域に言えることですが、「理論」は「実践」と触れあうことで、もっとも厳しくその価値を問われます。これから、専攻での演習はもとより、共通科目である「哲学」や「美学」の講義を通じて、皆さんと一緒に美学・芸術学の可能性を探求していきたいと思えます。



共著『コンテンポラリー・アート・セオリー』(イオスアートブックス、2013年)



2015かなざわエコライフキャンペーン

### 工藤 俊之 (視覚デザイン)

気がつけば今年で20回目となるダンボール展。大学卒業後アートディレクターとして写真家やイラストレーター、作家を探すなかで、「もしかして自分も作家なんじゃない?」とつねづね感じていました。

大学に教員として戻ってきて、視覚デザインの学生にも作家の才能があるんだということを知らせるために始めた課題だったのです。2年目には「あっこれ展覧会にした方がいいかも」と思いました。

展示会場も集会ホールから始まって展示ホール、アートベース石引へ、そして金沢市から予算をつけてもらって金沢市民芸術村、金沢駅もてなしドーム地下イベント広場へと成長してきました。あと5回やらせてください。この展覧会とともに卒業です。

### 根来 貴成 (製品デザイン)

「Hospitality Chairs」～待ち時間を豊かにする椅子～をテーマに、公共空間における新たなデザインの可能性を探求しています。2011年～2012年、金沢市立病院とホスピタリティアート・プロジェクトの一例として病院の椅子のデザインに取り組みました。これらの椅子は、患者やその家族が診察を待っている間、くつろぎや癒しを通して待ち時間を楽しむことができます。機能性だけでなく、形や色、サイズの工夫によっても患者のストレスや不安が軽減されます。また、2013年～2015年には、石川県立音楽堂とホスピタリティラウンジ・プロジェクトに取り組みました。機能性と音楽性をもたらす癒しの形が融合した魅力的な椅子が多く生まれました。この活動を通して、医療分野や公共施設における製品デザインの新たな可能性と教育への発展に手応えを感じています。



金沢市立病院/石川県立音楽堂での展示  
人気投票1位の椅子の細部  
JID AWARD 2015 NEXTAGE部門賞受賞

### 畝野 裕司 (環境デザイン)

大学着任以来、デザイン教育の一環として産学連携プロジェクトに力をいれています。2013年からDNPメディアクリエイティブと協力して、デジタル雑誌アプリ「kanavi (カナビ)」を制作しています。地域の新たな魅力を創出し、地域から発信していく手段としてデジタルメディアの可能性に着目しました。地域からの情報発信といっても、もともとそこに住んでいる人は自分たちの地域の良さを認識していないことが多いものです。学生たちは県外から金沢に移り住んできたため、新たな視点から金沢の魅力を発見し、そこで体験したことを「kanavi」で発信しています。金沢の重要な観光資源である伝統工芸に対しても、美大生ならではの作り手に寄り添った視点から伝えようとしています。研究を継続していくなかで、学生ならではの視点で金沢の良さを伝えることの大切さを再認識しました。学生にとって、この産学連携の取り組みを通して、金沢をより深く知るきっかけになり、知りたいと思って取材してみる。好奇心がわいてきて伝えたい。そういう、よい循環が生まれてきています。金沢発の新しいデジタルマガジンがスマートフォン世代に浸透していき、近い将来、地方からの有力な発信媒体として注目を浴びることになると期待しています。



金沢のアートや生活クラフトを紹介するデジタルマガジン

### 青木 千絵 (工芸)

工芸ではまず素材の特性や技法の基礎を丁寧に学ぶことから始まります。その中で、歴史的な技法や自分自身が惹かれる素材の魅力に出会い、自らの思考とリンクさせ研究を深めることで作品が生まれます。そこには、素材への強いこだわりと愛着も同時に生まれてきます。

私は漆造形による人体表現をテーマに作品制作を行っています。漆の伝統的技法である乾漆技法と人体という普遍的な課題を融合させ、人間の哀しみや存在に焦点を当てて新たな表現の可能性を探求しています。漆の強く美しい艶には、多くの工程が必要であり丁寧に丹念な仕事が隠されています。私の作品は人体をリアルサイズで制作することを一つのこだわりとしているため、必然的に大型なものになります。これには気の遠くなるような作業を伴いますが、不思議なことに漆に対するさらなる愛着が湧き、何より自分自身と向き合う思考の時間でもあります。今では自然素材である漆を使い、人の手によって一つの作品を作り上げることに強い喜びを感じています。

私は、学部から同じテーマで作品を作り続けていますが、学生時代にこのテーマに行き着いたこと、そして作品を通して多くの人と繋がったことが、現在の作家活動の基盤になっています。



《BODY16-1》

### 大谷 正幸 (一般教育等)

学部の頃には放射化学、製薬会社にて薬物動態学、大学院では電気化学と、複数の専門分野の研究に携わってきました。

そして、金美にて理系の一般教養科目を担当するにつれ、エネルギー事情への懸念から文明の行く末を考えずにはいられなくなり、近頃は「エルゴソフィ」に傾倒しています。エルゴソフィとは、ノーベル賞科学者F.ソディが提唱した概念で、「エンジニアの視点から考える経済学、社会学、歴史、および純粋に物理学的な意味での仕事、エネルギー、仕事率に関連づけられた知恵」のことです。

どの分野に進むにせよ、資源・エネルギーの減耗という時代の宿命を直視して、どう凌いでいくか、知恵を絞らねばなりません。

今更ながらJ.S.ミルが『大学教育について』に掲げていた諸科学の「体系化」の重要性を痛感している次第です。



ISBN-10:4794810237

# 日本画

Japanese Painting

創作精神と技術の育成  
 将来作家を目指す者の育成  
 美術・芸術分野の応用面に適応・貢献できる者の育成



日本画におけるカリキュラムは、左記の教育目標の実現に向けて編成されており、1・2年次は水干絵具・岩絵具等日本画用具用材による静物の精密写生により、基本的知識・表現の把握及び、模写臨模等の古典演習による伝統的表現の基礎的な理解を中心とした授業内容となっています。

2・3年次では草花・人物・動物・風景等の課題制作により表現技法並びに制作工程の習熟と制作意図についての研究を行い、さらに各自の制作を個別指導することにより自由で個性的な創作表現へと内容が深められます。

3年次後半からは、それぞれの研究の成果発表の場を学内にとどまらず各公募展等にも広げた積極的な活動を通し、学外にもその評価を求め、より高度な創作、実験を重ねることを奨めています。

その他、美術研修旅行(海外)・郊外写生授業を実施します。卒業後の進路としては、作家活動のみならず、教育関係・デザイン関係・工芸関係・美術関係の会社へと多方面の分野での幅広い活躍が目立っています。



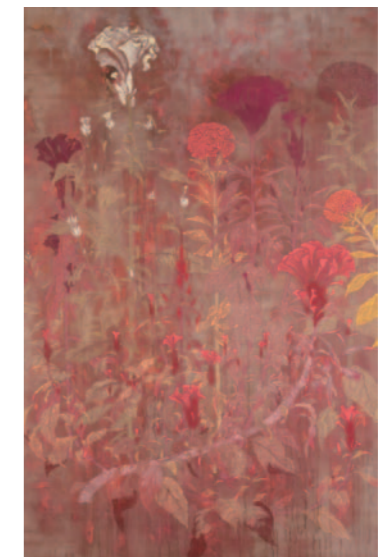
「舞い散る」松本 紗弥  
H194 × W130.3cm



「夏の終わり」中川 浩太郎  
H145.5 × W227.3cm



「へや」三輪 まどか  
H162 × W227.3cm



「鶏冠花」大和田 貴宏  
H227.3 × W145.5cm



「ちゃんと連れて行くから」西村 脩  
H200 × W200cm



「箱庭の座」中井 千章  
H181.8 × W227.3cm

## 教員

教授	仁志出龍司	教授	佐藤 俊介
准教授	荒木 恵信	准教授	よしだぎょうこ

## 非常勤

作家	中路 融人	作家	福本 達雄
作家	土屋 禮一	作家	三輪 晃久
多摩美術大学	米谷 清和	武蔵野美術大学	内田 あぐり
装演師	荒木 史	作家	今尾 景之
茶人	大島 宗翠	東京藝術大学	宮廻 正明
愛知県立芸術大学	北田 克己	他	

## 主な科目

- 日本画 (一) I・II
- 日本画 (二) I・II
- 日本画 (三) I・II
- 日本画 (四) I・II
- 日本絵画史特講
- 映像メディア
- 日本美術史 I・II
- 美術解剖学
- 彫刻 I・II
- 西洋美術史 I・II
- 色彩論
- 美学
- 近代美術史
- 東洋美術史 I・II
- 工芸技法 (紙)

# 油 画

Oil Painting

造形美術における基本的理念を理解するとともに、高度な油彩画技法を指導し、各自の個性と感性を伸展させます。新時代の芸術分野での活動を可能にさせる美術教育を目指して、将来の作家にふさわしい人材の育成に努めます。



## 教 員

教授	真鍋 淳朗	教授	三浦 賢治
教授	大森 啓	准教授	鈴木 浩之
准教授	高橋 治希	准教授	岩崎 純

## 非常勤

金沢21世紀美術館 作家	秋元 雄史	多摩美術大学 作家	石田 尚志
作家	今井 信吾	アートディレクター	江口 綾音
作家	喜井 豊治	京都造形芸術大学	北川 フラム
武蔵野美術大学 作家	木下 晋	金沢21世紀美術館	木村 克朗
作家	黒坂 圭太	造形作家・復元図家	黒澤 浩美
金沢21世紀美術館 作家	指江 昌克	作家	末松 智
美術照明家	武田 雄介	作家	寺島 穰
作家	中田 耕市	作家	丹羽 洋介
美術史家	原 崇浩	作家	開 光市
金沢21世紀美術館	藤原 工	作家	眞壁 陸二
	三野 哲二	作家	宮田 義廣
	向川 惣一	作家	山本 基
	鷲田 めろ		

## 主な科目

- 油絵 (一) I・II
- 油絵 (二) I・II
- 版画 I
- 油絵 (三) I・II
- 版画 II
- 油絵 (四) I・II
- 映像メディア
- 日本美術史 I・II
- 美術解剖学
- 彫刻 I・II
- 西洋美術史 I・II
- 色彩論
- 美学
- 近代美術史
- 東洋美術史 I・II
- コンピュータグラフィックス

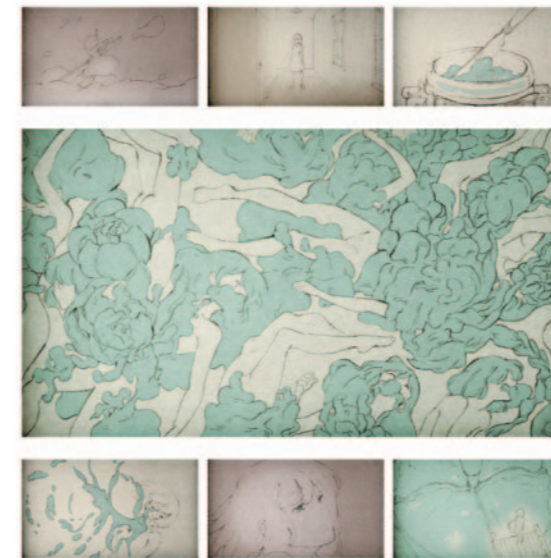
1、2年次は、基礎課程として描写力や造形美術の基本理念を学び、絵画に関する技能と知識を修得します。3年次からは研究室による個別指導を行い、表現力・構想力を伸ばしながら、進級制作を行います。4年次には独創性、現代性に留意し、卒業制作を行います。

授業は緻密に組立てられたカリキュラムに沿って、個々の自主性を尊重し、教員との対話を重ねながら進められます。1年次の石膏デッサン、裸婦デッサン、静物油彩、風景写生、人体油彩、グリザイユ画等は観察力・描写力を鍛え、2年次のカマイユ画、構図法等の油彩画技法では、創作表現に繋がる基礎研究を行います。3年次の表現技法研究、版画、モザイク、ステンドグラス、絵画組成などを通して、各自の表現を伸展させ、学年末の進級制作に向けて絵画を中心とした

多様な表現に於ける基礎技術の完成、そしてコミュニケーションスキルの上昇をはかります。4年次では前期制作を経て自己のイメージを探究し、4年間の集大成として卒業制作を行います。また自作についてのプレゼンテーションを行い、コンセプトを小論文にまとめるなど、言語化能力を向上させ創造的思考力を高めます。

識見に優れた作家・研究者を講師として招く合評会を定期的に開催し、学生の制作意欲を喚起させ、彼らの自発的・積極的な姿勢を育てています。

卒業後は大学院や海外留学を目指す者も多く、また作家として、教育者として、そして映像・デザイン等の分野で活躍している油画専攻の卒業生たちは、独自の感性を生かしながら、美術界ならびに地域文化の発展に大いに寄与しています。



「火を雪ぐ夜」(アニメーション) 小野寺 加純  
3分7秒



「オン・ザ・キャンパス」(キャンパス、油絵具) 榮長 義雄  
H227.3 × W194 × D181.8cm



「笠舞の風景」(キャンパス、油絵具、テンペラ) 張 陽太  
H162 × W194cm



「昼寝」(キャンパス、油絵具) 森田 都茂加  
H194 × W97cm

# 彫刻

Sculpture

自然観察により造形の基本を探り、美に対する洞察力を養います。様々な素材との対話をはかり、自己表現の可能性を追求します。造形表現に対する高度な技術と理論の深化に努めます。広く芸術領域、社会の中で活躍、貢献できる人材の育成を目指します。



本専攻では扱う素材と内容から、それぞれカリキュラムは比較的長い期間で課題が生まれ、学生はじっくりと制作研究が行えるようになっています。

また、指導では「学年制」と各教員の専門性を生かした「素材コース担当制」をとり、学生と教員が作品についての対話をしながら制作を進めるマンツーマン指導となっています。加えて彫刻論、プレゼンテーション、合評会等を随時行い自己の表現の言語化と理論構築を進めています。

1、2年次は基礎課程と位置付け、自然観察を基本に「塑造(人体) 実習」「塑造(クレーワーク) 実習」「石彫実習」「木彫実習」「金属彫刻実習」「テラコッタ実習」「先端表現実習」

等、様々な素材の把握や技術修得を中心としたカリキュラムとなっています。

3、4年次は発展課程として、素材・表現別に塑造(人体)、塑造(クレーワーク)、木彫、石彫、金属彫刻、先端表現の中から一つを選択して制作を行い、より専門的で高度な素材と技術の研究を行うと共に、表現の理論化と応用力を養います。これらの実践と研究を踏まえ各自の成果を卒業制作として提出します。

卒業後は大学院進学を中心に海外留学を目指す人や作家としての活躍は勿論、教育職、美術関係の企業等、広く芸術、美術分野で社会に多大な貢献をしています。



「Epic of Progress」(磁器土、ガラスアイ、ステンレス、大理石粉、白砂) 岡田 杏  
H140 × W230 × D248.5cm



「みんないっしょ」(鉄) 仲 駿輔  
H300 × W500 × D540cm



「トリアタマ【ツナガリ】」(テラコッタ) 白石 くるみ  
サイズ可変



「あなたがいて私がいる」  
(写真、石膏、ガーゼ、アルミ金網) 尾崎 太亮  
H250 × W100 × D70cm (×3)



「無限の有限」(石、アクリル絵の具) 大山 日歩  
H210 × W142 × D135cm



「自我の芯」(木) 後藤 尚志  
H180 × W60 × D40cm

## 教員

教授	中瀬 康志	教授	石田 陽介
教授	土井 宏二	准教授	浜田 周
准教授	芝山 昌也		

## 非常勤

京都市立芸術大学名誉教授	小清水 漸	栃木県立美術館特別研究員	山本 和弘
沖縄県立芸術大学教授	波多野 泉	DIC川村記念美術館学芸員	光田 由里
ギャラリスト	横田 茂	作家	吉川陽一郎
作家	棚田 康司	映画監督	亀井 岳
作家	伊藤 幸久	作家	渡辺 秀亮
作家	秋吉かずき		

## 主な科目

- 彫刻(一) I・II
- 彫刻(二) I・II
- 彫刻(三) I・II
- 彫刻論 I・II
- 彫刻史特講
- 彫刻(四) I・II
- 映像メディア
- 日本美術史 I・II
- 美術解剖学
- 西洋美術史 I・II
- 色彩論
- 東洋美術史 I・II
- 絵画 I・II
- デザイン I・II・III
- 工芸 I・II・III・IV
- 美学
- 近代美術史
- コンピュータグラフィックス



# 芸術学

Aesthetics & Art History

## 理論と実践の芸術学

芸術における理論と実践を有機的に連携させ、造形技法に精通した美的感性と理論的思考力をはぐくみ、幅広く芸術分野の現場で活躍する人材の育成を目指しています。



### 教員

教授 神谷 佳男 (絵画・版画)	教授 保井 亜弓 (西洋美術史)
教授 山崎 剛 (工芸史・工芸論)	准教授 水野 さや (日本・東洋美術史)
講師 星野 太 (美学・芸術学)	

### 非常勤

本学客員教授 木村 三郎	本学名誉教授 五十嵐嘉晴
本学名誉教授 上田 恒夫	本学名誉教授 川上 明孝
造形作家 伊藤 幸久	茶道教授 大島 廣靖
(株)岡墨光堂 岡 岩太郎	東京大学 木下 直之
造形作家 金 正逸	翻訳家 木村 恵一
国立西洋美術館 幸福 輝	紙本修復家 坂本 雅美
東京文化財研究所 塩谷 純	金城大学 蘇 哲
日本大学 高橋 幸次	造形作家 エヴリン テプロフ 麦井
造形作家 名雪 園代	文化庁 林 洋子
美術評論家 福住 廉	国立新美術館 真住 貴子
(株)明古堂 仏像修復師 明珍 素也	柳宗理記念デザイン研究所 森 仁史
英文学者 渡辺 明敏	金沢21世紀美術館 鷲田めるろ

### 主な科目

- 専攻科目：芸術学演習（調査研究の基礎と実践、専門研究と卒業論文の執筆）、専門演習（美学、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史、工芸史、版画など）
- 理論系科目：日本美術史、東洋美術史、西洋美術史、美学、工芸史、近代美術史、美術工芸特論、日本絵画史特講、西洋絵画史特講、彫刻史特講
- 実技系科目：絵画、彫刻、工芸、版画、映像メディア、デザイン、コンピュータグラフィックス
- 語学系科目：専門語学（英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、中国語、ハングル、古文など）

## 芸術学専攻の特色

芸術の理論と実践を有機的に連携させ、美的感性と理論的思考力の育成を教育の基本としており、以下の5つの特色が挙げられます。

### ① 芸術分野の研究能力を培う専門性の高い教育

美術研究の基礎となる理論系授業として、美と芸術一般を理論的に検討する「美学」、原始・古代から現代までの日本・東洋・西洋の絵画・彫刻・工芸・建築などの諸分野を芸術学の立場から考察する「美術史」、そして「工芸史」「工芸論」などがあります。

芸術学専攻のカリキュラムの根幹を担う科目の一つである芸術学演習では、各自がそれぞれ関心ある美術品を購入し、それについて多角的な調査・研究を行い、口頭で研究成果を発表し、学内で購入品の展示会を開催する実践的な演習も行っています。この他、古美術品調査の基礎を身につける京都と奈良を中心とした研修旅行、本格的な学術調査や美術展覧会見学への参加など、芸術学の専門性を幅広く高める教育をおこなっています。

### ② 伝統文化の環境を生かした工芸史・工芸論

伝統工芸が盛んな金沢には、多くの工芸作家が在住し、関連する素材、技法に関する情報も豊富です。さらに、本学所蔵の「平成の百工比照」と呼ばれる金工・染織・漆工・陶磁の工程見本、技法見本、製品見本、道具や材料を含む貴重で稀有なコレクションをはじめ、金沢21世紀美術館などさまざまな美術館や博物館があります。このような衣・食・住に関連する豊かな伝統文化と美術館・工芸品が身近にある環境を生かし、工芸史及び工芸論に幅と深みをもたせた教育・研究は、全国でも貴重な存在です。

### ③ 充実した実技演習

美的感性を養いながら技法や素材に関する実際的な認識を深めることを目的とし、本学の実技系教員等により、絵画・彫刻・版画・工芸・デザイン・映像メディア・コンピュータグラフィックスなどの各種授業をおこなっています。美術系大学の芸術学専攻のなかでも、極めて豊富な授業内容を提供しています。また、他専攻の教員や将来のアーティスト・デザイナー・工芸作家となる学生たちとの交流の機会は、芸術学を学ぶ皆さんにとって、身近な研究テーマの発見の場となるでしょう。

### ④ 多彩な語学教育

芸術学専攻では、専門的な研究に欠かすことのできない語学の教育にも重点をおき、英語・フランス語・ドイツ語・イタリア語・中国語・ハングル・古文など多彩な専門語学の科目を独自に開講しています。

### ⑤ 芸術諸分野での活躍

卒業後は、博物館・美術館の学芸員、美術分野の学校教員をはじめ、美術評論家や報道・出版関係者として、幅広く芸術関連分野で活躍することが期待できます。特に博物館・美術館には多くの人材を送り出しています(36ページ参照)。また、大学院(修士課程・博士後期課程)へ進学し、研究者としての能力を高め、研究実績の充実に努力する道も開かれています(28-30ページ参照)。

## 卒業研究

理論と実践の両面を修得してきた4年間の集大成として、卒業論文を執筆します。これを完成させることが人生の結節点となり、さらなる飛躍の足場をなすものととらえ、教員による懇切な個人指導を行い定期的に行う中間発表でさらに充実させます。学生個々が設定するテーマは広範囲に及び、論述を中心とした執筆を基本とします。毎年、基礎研究に基づいた、個性的で学術的レベルの高い論文が作成されています。

論文の成果は、卒業制作展においてパネルや映像資料などによる展示と、一般公開の口頭発表をおこないます。こうした論文作成の過程で修得するさまざまな学識、実践的かつ専門的な研究方法、プレゼンテーションの経験は、卒業後さまざまな場面で有効なものとなっています。



エリザベス・キース  
—アジアを題材とした制作活動について—  
青柳 柊子



青銅器のいわゆる「饗餐文」に関する再考察  
内山 優美

## 平成27年度 卒業論文

- ・青柳 柊子 エリザベス・キース —アジアを題材とした制作活動について—
- ・渥美俊太郎 目的なき合目的性 —カント『判断力批判』・美の分析論における第三契機の理解—
- ・阿部菜都紀 金魚と日本人 —飼養及び鑑賞の歴史の変遷と現代における諸問題—
- ・内田 百香 高崎だるまの変遷 —高崎市と群馬県達磨製造協同組合の取り組みを中心に—
- ・内山 優美 青銅器のいわゆる「饗餐文」に関する再考察
- ・岡原 美紀 エドゥアール・マネにおける黒について
- ・梶田 渚 太平記絵巻について —太平記絵巻の全貌にせまる—
- ・中川 成美 エロール・ル・カイン絵本の考察 —「美術品借用」と「縁飾り」の観点から—
- ・牧山 好海 美術館における鑑賞教育の現状と課題 —福井県立美術館・福井市美術館・金津創作の森の実践を比較して—

## 平成27年度 修士論文

- ・今野 咲 一九三〇年代の農村における工芸振興 —積雪地方農村経済調査所の取り組みから—

# 視覚デザイン

Visual Communication Design

“ヴィジュアル・コミュニケーションは世界で戦う平和な武器である”  
を合い言葉に、徹底したマンツーマン教育を実践しています。



ヴィジュアル（視覚）デザイン。文字どおり、目に見えるすべてのものが、私たちのフィールドです。色彩、パッケージ、絵本、キャラクター、イラスト、レタリングなど基本的なグラフィックデザインから、広告、写真、映像、CI、コマーシャル、音楽、などコミュニケーションデザインの世界。さらにデジタル時代の広がりから、ウェブ、コンピュータグラフィックス、ゲーム、アニメなど、ありとあらゆるジャンルに対応した扉があります。それを開ける鍵を持つためには、「ヴィジュアル・コミュニケーション」の本質をしっかりと認識する事が重要です。簡単に言うと、人や社会を相手に「面白いね!」「楽しいね!」「じ〜んとくるね!」と言わせる事のできる心の通ったデザイン力をしっかり身につける事です。

私たち視覚デザイン専攻では、あらゆるコミュニケーションに対応できる多様性と、柔軟性にあふれた人材育成を目的に、一人ひとりの個性に合わせた高いレベルのクリエイティブ指導を徹底して行っています。1〜2年次は基礎デザインの体力を養い、3年次以降は社会や企業と連携した、より実践的でそれぞれの個性に合わせたプログラムを組み、社会に送り出します。

実際、当専攻卒業生のほとんどが広告、アート、映像、ゲームなどの世界で活躍し、またその経験を生かして後輩の育成に携わるというネットワークがあります。



立体作品「body body percussion」 荒川 真里奈



平面作品「猛毒生物に関する6つのレポート」 倉橋 沙知

## 教員

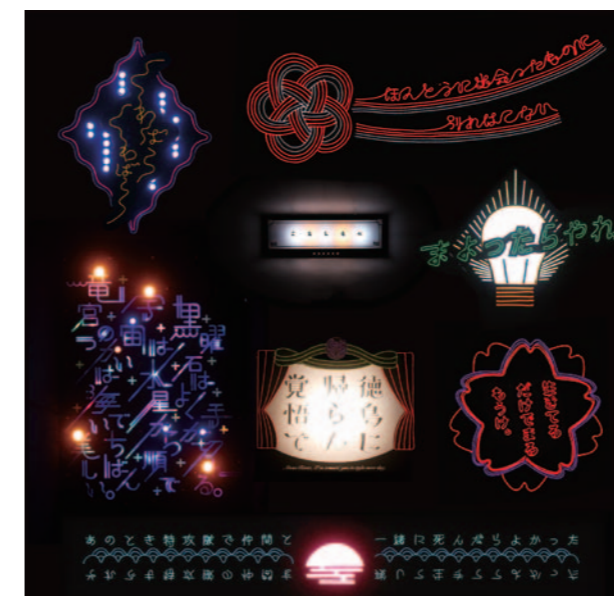
教授 後藤 徹 (コミュニケーションデザイン)	教授 工藤 俊之 (広告)
教授 寺井 剛敏 (ブランディング)	教授 鈴木 康雄 (映像)
准教授 坂野 徹 (エディトリアル)	

## 非常勤

デザイナーナリスト	佐藤 和子	クリエイティブディレクター・CMプランナー	小田 桐 昭
ミームデザイン学校	中垣 信夫	(株)博報堂チーフクリエイティブオフィサー	宮崎 晋
フォトグラファー	小杉 和弘	(株)山田写真製版所	熊倉 桂三
ミュージシャン	池田洋一郎	(株)TYO	早川 和良
岡山県立大学	山下 明美	日高国際特許事務所	日高 一樹
凸版印刷(株)	岡田 佳英	(有)字游工房	鳥海 修
(株)デルコ	國本 和代	(株)資生堂	澁谷 克彦
多摩美術大学	永原 康史	平野遼太郎デザイン研究所	平野 遼太郎
株式会社ヨロコビト	柏本 郷司	(株)スクリーンプロセスクニエダ	国枝 千晶
(株)博報堂	米村 浩	(株)ホッチキス	水口 克夫
(株)博報堂	石井 うさぎ	写真家	高村 達
(株)電通	福井 崇人	(株)サントリー	石浦 弘幸
(株)電通	小林 慎一	(株)北陸博報堂	宮崎 昭秀
shotype design	岡野 邦彦	大西英史企画制作室	大西 英史
(株)wise	尾小山良哉	花王(株)	能村 美穂
名古屋造形大学	外山 貴彦	woolen	福岡南央子
(株)サン・アド	安藤 基広	(株)日本デザインセンター	大黒 大悟
(株)ハル研究所	熊崎 信也	(株)オインクゲームズ	佐々木 隼
ALL RIGHT GRAPHICS	高田 唯		

## 主な科目

- 視覚デザイン演習
- 形態演習
- 描出演習
- 色彩演習
- 材料学演習
- 立体図法
- 形態論
- コンピュータ演習
- デザインプロセス演習
- 印刷演習
- 照明論
- 映像演習
- 近代デザイン論
- 人間工学
- 展示計画論
- 広告演習
- 画像処理演習
- パッケージ演習
- 意匠法規
- デザインマーケティング
- 卒業制作



立体作品「ことしるべ」 村田 敦子



アニメーション「papa」 坂上 隆之介

# 製品デザイン

Industrial Design

社会的ニーズに応える広い視野を持ち、  
人とのコミュニケーション能力が高く、  
時代の風に敏感な造形力あふれるデザイナーを養成します。



日用品や家具、電気製品、情報機器、公共用品、自動車などのデザインを扱います。社会の要請に適切に応え得る幅広い視野と人間に対する深い理解に満ちたデザイナー、研究・教育者の育成を目指しています。社会情勢や生活環境の変化を把握し、すべての人を対象としたものづくりが大切だと考えています。

可能性を秘めた多くのアイデアを考え、自らの手で試作し、使用者を交えた実験と改良を繰り返す過程を実践しています。これらの過程をサポートする基礎として、ワークショップでは、木材・金属・プラスチックなどの素材の加工、溶接・塗装などの技術を修得します。

CAD、CAMの技術を修得し3Dプリンターによる出力をモデル検証・検討に用いる他、CG画像を実際のモデルでは表現できない機能や材質の表現、画面やパネル、映像による作品説明に使用します。またスタジオで撮影機材を用いた写真技術を学ぶと同時に、作品集制作までのデジタルプロセスを学びます。学外実習として毎年3年次で企業見学やインターシップ、学外研修として研修旅行を行い、実際のデザインの現場や、文化・芸術を体験します。

デザイン科3専攻は相互に連携した教育を行っています。1年次での3専攻共通の演習や3年次での専攻をまたいだチームプロジェクトなどがあります。



「電気自動車に搭載するAED」  
秋山 朝子



「農業を始める高齢者をアシストする電動草刈機」  
伊村 拓見



「通勤の歩行、自転車移動に代わる電動3輪キックスクーター」  
垣田 悠作

## 教員

教授 村中 稔 (情報機器)	教授 浅野 隆 (輸送機器)
教授 河崎 圭吾 (家電製品)	教授 安島 諭 (デザイン開発)
准教授 根来 貴成 (家具・インテリア)	

## 非常勤

(株)平野デザイン設計 AD PHOTO SHINANO	平野 拓夫 品野與四寛	デザイン・ジャーナリスト (財)柳工業デザイン研究会	佐藤 和子 柳 新一
(株)岡村製作所	小熊 誠次	日高国際特許事務所	日高 一樹
(株)デルコ	國本 和代	古場田デザインスタジオ	古場田良郎
(株)DDS	永原 隆	宮城大学	日原 広一
凸版印刷 (株)	岡田 佳英	(株)スタジオピーバ	小倉ひろみ
日本電気 (株)	坂井 晃	(株)パナソニック	今村 正樹
関西学院大学	長田 典子	テクノロジー・ジョイント (株)	高橋 英行
ソニー (株)	入矢 真一	オータニアートスクール	舘田 千里
エイジデザイン (株)	稲垣 揚平	GEN SUZUKI STUDIO	鈴木 元
京セラ株式会社	谷 美那子	PRODUCT DESIGN CENTER	鈴木 啓太
いすゞ自動車 (株)	矢島 幹生	トヨタ自動車 (株)	松本 麻美

## 主な科目

- 製品デザイン演習
  - 形態演習
  - 描出演習
  - 色彩演習
  - 材料学演習
  - 立体図法
  - 写真演習
  - 形態論
- コンピュータ演習Ⅰ・Ⅱ
  - インターフェイスデザイン
  - デザインプロセス演習
  - 照明論
  - 機械製図法
  - 家具意匠論
  - 近代デザイン論
  - 人間工学
- デザイン工学
  - 製品計画論
  - デザインマーケティング
  - 製品デザイン特論
  - 意匠法規
  - 卒業制作



「高齢者の生活を豊かにするマリンバ」  
佐藤 大輔



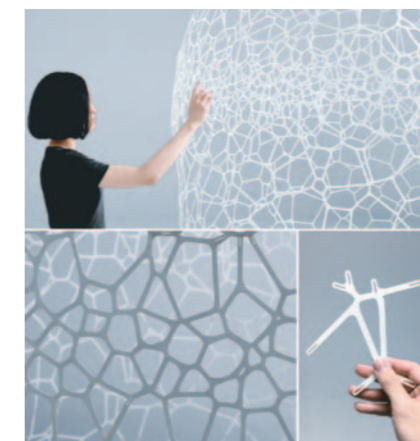
「美術館のための電動車椅子」  
鈴木 僚



「食卓を美しく彩るお惣菜容器」  
田原 彩友美



「人生を共に過ごすライディングチェア」  
吉野 あゆみ



「interior cell アルゴリズムを用いた  
プロダクトマテリアルのデザイナー」  
薄上 紘太郎



「Cross coupe 2つのスタイルを持つモビリティ」  
三谷 真哉

# 環境デザイン

Interior & Architectural Design

空間デザイン領域を柱に造形力と専門知識を修得して社会に発信できるデザイナーを目指す。



人のスケールを基準とした内部空間・インテリアデザインに軸足を置いたカリキュラムとしており、その考えに基づいてデザイン・設計に関する演習と講義を実施します。デザイン演習の題材はショップ・ディスプレイデザイン、展示会やイベント、住宅や庭園、公共施設、またそこで使用される設備、器具等や家具類です。また設計を具体的に進めるために建築的な知識や技術の修得が必要となるため講義、実習を用意しています。

また金沢の豊かな自然環境、都市環境に触れながら、活力溢れる独創的なデザインやまちづくりに携わる人材の育成を目指すと共に、一人ひとりの潜在能力を引出し、現実の社会に対する提案力とグローバルな視野を養います。

具体的には、1年次で基礎デザインとしての造形力と空間系の初歩的表現を身につけ、2年次では空間デザインの基礎を、専門演習（スケール、施工、素材等）を通して学びます。3年次においては、これまで積上げた技術と手法で、社会との接点を見出すことを念頭に、専門性の確立を目指して演習に取組みます。学部最終の4年次は、自己のテーマを探り、これまでに培った総合力を発揮して、作品制作を行うことを目標としています。これまでの卒業生は、インテリア、ディスプレイ業界をはじめ建材メーカーや住宅関連、建築設計、造園・グリーン関連分野で活躍しています。進学については、空間デザインや建築設計の分野でさらなる研究を進めることを奨励しています。

## 教員

教授 坂本 英之 (都市・建築デザイン)	教授 角谷 修 (空間デザイン)
教授 鏑 隆弘 (ランドスケープデザイン)	教授 畝野 裕司 (ディスプレイデザイン)
准教授 北村 賢哉 (プロダクトデザイン)	

## 非常勤

東京大学名誉教授 デザインジャーナリスト 写真家 (有)丸岡樹仙堂 (株)ミキモト (株)高屋設計環境デザインルーム 隈研吾建築都市設計事務所 (株)デルコ 妹島和世建築設計事務所 パナホーム(株) 平野遼太郎デザイン研究所 (株)パナソニック 多摩美術大学 (株)乃村工芸社 鈴木管工業株式会社 西沢立衛建築設計事務所 吉村寿博建築設計事務所 小西泰孝建築構造設計事務所 あとりいえ。 (株)資生堂	内田 祥哉 佐藤 和子 品野與四寛 丸岡 喜市 新保 智子 高屋 利行 隈 研吾 國本 和代 妹島 和世 松岡 繁 平野遼太郎 今村 正樹 吉橋 昭夫 吉永 光秀 鈴木 啓泰 西沢 立衛 吉村 寿博 小西 泰孝 やまだのりこ 岸野 桃子	(株)平野デザイン設計 村上建築設計研究所 田中寛志デザイン事務所 (株)金沢測機 東京大学 日高国際特許事務所 廣村デザイン事務所 中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋 環境省 (株)東洋設計 (株)エフ・デザイン (株)丹青社 テクノロジー・ジョイント(株) 萩野アトリエ 高田産業(株) ヤマギワ株式会社 橋本建築造園設計 オータニアートスクール 一級建築士	平野 拓夫 村上 章彦 田中 寛志 中 晴夫 西村 幸夫 日高 一樹 廣村 正彰 北川 勝明 三村 起一 上坂 達朗 二木 宏治 洪 恒夫 高橋 英行 萩野 紀一郎 村田 悟 山本 孝幸 橋本 浩司 館田 千里 中山 利恵
---	---	--	---

## 主な科目

- 環境デザイン演習
  - 形態演習
  - 描出演習
  - 色彩演習
  - 建築史 I
  - 材料学演習
  - 環境デザイン工学 I
  - 環境デザイン工学 II
  - 立体図法
- 形態論
  - 建築史 II
  - デザインプロセス演習
  - コンピュータ演習
  - 家具意匠論
  - 建築製図法
  - 照明論
  - 近代デザイン論
  - 人間工学
- 景観論
  - 地域空間論 I・II
  - 展示計画論
  - 屋内計画論
  - 環境造形計画論
  - 映像演習
  - 建築法規
  - 環境デザイン特論
  - 卒業制作



「coco chigae」  
國村 光



「Future-Light 2020 2020年の玄関ユニットの提案」  
上荒磯 翔太



「すむいえ ~災害復興住宅~」  
田中 明香音



「SOW」  
吉岡 茉莉

# 工芸

Craft

現代の工芸は、その表現や解釈が多様化しており、将来に向けてますますその傾向が拡大発展する可能性を有する。工芸科では各種の素材や伝統的技法を用いて、時代に即応した造形的表現へ柔軟に対応できる人材の育成を目指す。



工芸とは、「良き素材のもとで、作り手の豊かな感性と優れた技とを駆使して、私達の物質的欲求と精神的充足度の両面から、より豊かな生活をおくるために必要なものづくり」にほかなりません。

精神性や、自己の個性的な表現を追求すれば、限りなく美術の世界に近づくでしょうし、機能性を追求していけば、デザインの世界に入っていくことも可能でしょう。

現代の工芸の領域は益々広がっています。このことに配慮して、大学4年間の初期を「基礎と体験」ととらえて、工芸に限らず過去の美術やデザインの歴史を探り、現代の工芸の

あるべき姿を模索します。

造形の発想や基本的な表現方法を学び、さらに各素材の特徴を知りそれに伴って道具の使い方を修得します。

次に中期を「素材と技術」の期間として陶磁、漆・木工、金工、染織のそれぞれの専門に分れて、素材と技術をより深めて自分の個性的な持ち味を実践します。

後期には、「創造性」をキーワードとして、時代性をとらえ、各自の設定したテーマに従い独自の作品を制作します。伝統に学び、新しい世界を開く人材の育成を目指します。



「再生」李 小筠 H5 × W4.5 × D3cm等全14点  
漆、木、麻布、綿、流木、貝、珊瑚、鉱石、植物、金、銀



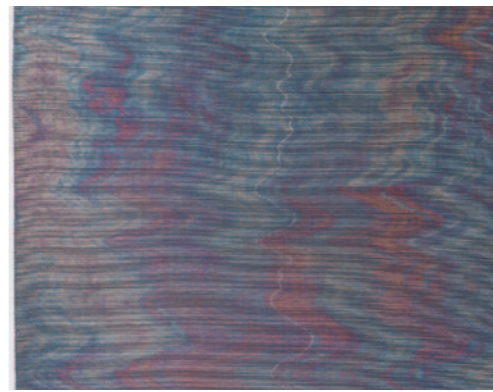
「森に熔ける光」河野 太郎  
H150 × W240 × D95cm  
青銅、真鍮



「synergy 幾何学建物の小箱」下川 歩実  
H6.5 × W5 × D5cm他全5点  
銅、真鍮、白銅、銀、ステンレス、ガラス



「器の皮膚」佐藤 文  
(写真手前から) H6.5 × W28 × D15.5cm、  
H11 × W31 × D20cm、H8.5 × W23 × D20.5cm、  
H20.5 × W25 × D12.5cm 磁土



「Night sky」渡邊 美咲  
H125 × W42cm  
絹、銀箔、ホワイトゴールド箔、和紙



「サマータイム、午後7時の星」小守 郁実  
H440 × W350 × D100cm  
ポリエステル、分散染料、ナイロン糸



「跡」鶴飼 康平  
H16 × W71 × D19cm  
木、漆、金箔、銀粉、錫粉、顔料



「生きるということ ―“自己”という棺の中で―」  
林 美后  
H180 × W40 × D30cm  
陶土、磁土、合板

## 教員

教授	田中 信行 (漆造形)	教授	山村 慎哉 (漆芸)
教授	山本 健史 (陶造形)	教授	原 智 (金工)
教授	大高 亨 (染織)	准教授	池田 晶一 (陶造形)
准教授	林 泰史 (鍍金)	講師	宮永 春香 (陶磁)
助教	藪内 公美 (鍛金)	助教	青木 千絵 (漆造形)

## 非常勤

造形	伊藤 公象	陶磁 (陶造形)	久世 建二
陶磁 (陶造形)	板橋 廣美	陶磁 (上絵)	武腰 潤美
陶磁 (上絵)	福島 武山	陶磁 (上絵)	角目 里美
陶磁 (陶造形)	中村 卓夫	陶磁 (釉薬)	手島 敦
陶磁 (染付)	竹内 智恵	陶磁 (ロクロ)	森岡 希世子
陶磁 (ロクロ)	中田 雅巳	漆芸 (蒔絵)	田村 一舟
漆芸 (重要無形文化財技術保持者)	前 史雄	漆芸 (髹漆)	荒川 文彦
漆芸	名雪 園代	木工芸 (挽物)	中嶋 虎男
木工芸 (割物)	一司 功成	木工芸 (指物)	酒井 忍
木工芸 (製図)	佐竹 功成	木工	藤野 征一郎
漆材料科学	大藪 泰	彫金 (重要無形文化財技術保持者)	桂 盛仁
彫金 (重要無形文化財技術保持者)	中川 衛	精密鑄造	小杉 拓也
鍍金 (惣型)	宮 伸穂	鍍金	梶間 秀人
鍛造	川合 純司	ジュエリー	八杉 真由美
テキスタイルデザイナー	眞田 玲子	(株)クラボウ	鈴木 洋行
バスケットリー	関島 寿子	織物 (緋)	富田 潤
染織研究家	平木 有二	友禅	毎田 健治
刺繍	吉田 智子	刺繍	宮越 仁美
テキスタイルデザイナー	山口 道夫	織物 (紬)	山下 郁子
ガラス	田 聡美	工芸論	金子 賢治
ガラス	渡部 匠人	工芸論	外館 和子
デザインプロセス	山村 真一	茶道	大島 宗翠子
クリエイティブディレクター	金谷 勉	華道	矢地 幸子
写真	濱崎 敏彦		

## 主な科目

- 工芸演習 (陶磁、漆・木工、金工、染織)
- 描出演習・形態演習・色彩演習
- 材料学演習 (繊維、粘土・石膏、木材、金属)
- 立体図法
- 写真演習
- コンピュータグラフィックス
- 映像メディア
- 日本美術史、西洋美術史、東洋美術史
- 現代工芸論
- デザインプロセス
- 素材技法演習
- 地域工芸演習 I・II
- 複合素材演習
- 工芸史 I・II
- 工芸企画演習
- 伝統文化論
- 意匠法規
- 古美術演習

# 一般教育等

Liberal Arts

広い視野と教養から生まれる  
自由な発想  
想像力から創造力へ



# 基礎科目

Basic Subjects

理論と実技の両面から、専攻の枠を越えた全学的な授業を行い、幅広い視点に立った基礎能力を高めるとともに、様々な特色ある講義と創作活動の場を提供しています。



## 教員

教授 小松崎拓男 (博物館学)	教授 青柳 りさ (仏語・仏文学)
教授 高橋 明彦 (日本文学)	教授 桑村佐和子 (教育学)
教授 大谷 正幸 (化学)	准教授 荷方 邦夫 (心理学)
准教授 中安 翌 (メディアアート)	講師 稲垣 健志 (イギリス史・イギリス文化)

## 非常勤

金沢大学 金沢学院大学 語学講師	今井 竜也 小嶋 芳孝 ブラッド・ウィンフィールド	金沢大学 石川県能登島ガラス美術館 語学講師	鏡味 治也 末吉 守人 キャサリン・シュリーヴス
金沢大学 語学講師	マーク・ハモンド	金沢大学 語学講師	セシル・アンドリュ
金沢大学 語学講師	堀 美佐子	金沢大学 語学講師	石黒 盛久
体育講師	正木 恵美	金沢大学 体育講師	向井 理恵
本学名誉教授	嶋山 進一	金沢大学 石川県立小松高等学校 作家	竹井早葉子 鷺山 靖 新保 基平
金城大学短期大学部 作家	輪島 道友 森田ゆかり 横江 昌人	宮城県美術館	村井 良樹 和田 浩一
金沢大学附属中学校	西澤 明		

## 主な科目

- (一般教育)
- 哲学
- 心理学
- 歴史
- 日本国憲法
- 文学
- メディア論
- 文化人類学
- 考古学
- 人間と文化
- 生涯学習概論
- フレッシュマンセミナー
- スポーツ科学
- 物質の科学
- 材料の科学
- 情報処理
- エコロジー
- 科学技術史
- 数理科学
- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 体育実技
- (教職科目)
- 教育の本質と目的
- 教育心理学
- 教職論
- 教育課程論
- 教育方法論
- 博物館教育研究
- 道徳教育研究
- 美術教育法
- 工芸教育法
- 教育制度と社会
- 生徒指導論
- 教育相談研究
- 教育実習
- 教職実践演習
- (博物館科目)
- 博物館概論
- 博物館資料論
- 博物館経営論
- 博物館情報・メディア論
- 博物館資料保存論
- 博物館展示論
- 博物館教育論
- 博物館実習

- 一般教育
- 外国語
- 保健体育
- 教職課程
- 博物館学芸員課程

一般学科では、専任・非常勤、多彩なスタッフを配し、魅力ある授業を編成することによって、美術・デザイン・工芸それぞれの専門分野をめざす学生の、創造性と知的活力の基盤となる教育・研究を展開しています。授業形態も、講義、ゼミナール、実験、ワークショップ、合宿、研修旅行と多岐にわたっています。

一般教養科目では、伊勢物語からインシュタインまで、音楽、映像、マンガ、コンピュータと、学生の要望に応えつつ、その可能性を引き出し伸ばすことができるよう、授業内容を工夫しています。また同時に専門科目と積極的、かつ有機的連携をはかっています。外国語科目は、英・仏・独・伊と選択の幅も広く、少人数クラスで配慮の行き届いた教育により成果をあげ、毎年、多数の学生が、欧米を中心に公費・私費で留学しています。活躍の場は世界です。スポーツ科学では、救急法をはじめとした、実用的な講義もなされています。

また卒業生の4割が教員免許状を、3割が学芸員資格を取得し、それぞれ全国で活躍し、高い評価を得ています。

## 非常勤

日本美術史Ⅱ	佐野みどり	日本美術史Ⅱ	山本 緑
東洋美術史Ⅱ	平岡三保子	東洋美術史Ⅱ	山本 緑
西洋美術史Ⅱ	木下 亮	西洋美術史Ⅱ	山本 緑
近代美術史	甲斐 義明	近代美術史	山本 緑
近代美術史	米田 尚輝	工芸史Ⅱ	山本 緑
工芸史Ⅱ	五味 良子	美術工芸特論	山本 緑
美術工芸特論	五十嵐嘉晴	色彩論	山本 緑
美術解剖学	尾崎 紀之	色彩論	山本 緑
色彩論	前川 満良	環境心理学	山本 緑
造形心理学	青山 征彦	絵画Ⅲ (フレスコ)	山本 緑
絵画Ⅱ (版画)	竹内 佳奈	工芸Ⅲ (木工)	山本 緑
工芸Ⅱ (ガラス)	渡辺 匡人		
工芸Ⅳ (刺繍)	吉田 智子		

## 主な科目

- 美学
- 日本美術史Ⅰ
- 日本美術史Ⅱ
- 東洋美術史Ⅰ
- 東洋美術史Ⅱ
- 西洋美術史Ⅰ
- 西洋美術史Ⅱ
- 近代美術史
- 工芸史Ⅰ
- 工芸史Ⅱ
- 美術工芸特論
- 美術解剖学
- 図学
- 色彩論
- メディアアート
- 造形心理学
- 環境心理学
- 建築論
- 専門英語演習
- 芸術と批評
- 保存修復概論
- 絵画Ⅰ (素描・静物)
- 絵画Ⅱ (素描・人体)
- 絵画Ⅲ (日本画)
- 絵画Ⅳ (油絵)
- 絵画Ⅴ (フレスコ)
- 彫刻Ⅰ (塑造)
- 彫刻Ⅱ (彫造)
- デザインⅠ～Ⅲ
- 工芸Ⅰ (金工)
- 工芸Ⅱ (陶磁)
- 工芸Ⅲ (木工)
- 工芸Ⅳ (漆・木工)
- 工芸Ⅴ (染織)
- 工芸Ⅵ (刺繍)
- 映像メディア
- コンピュータグラフィックス
- 版画
- 工芸技法 (紙)
- 造形表現工房Ⅱ (平面/ドローイング (人体))
- 造形表現工房Ⅲ (立体/インスタレーション)
- 造形表現工房Ⅳ (素材・技術/素材技術研究)
- 造形表現工房Ⅴ (社会環境/アートプロジェクト)
- 造形表現工房Ⅵ (語学・理論/美術教育ゼミナール)

基礎科目は、美術・デザイン・工芸の理論的な基盤となる講義、基礎造形力の習得と幅広い表現力を身に付けるための演習で構成されています。このうち5月下旬から6月上旬に実施される3週間の基礎科目集中履修期間では、他領域の専攻の教員が担当する実技系科目を体験する、いわば専攻の枠を越えた実技授業を実践しています。また必修の科目以外では、「造形表現工房」という教員の専門的な研究を活かした科目を開設して学生の自由な意欲に基づいて履修できる範囲を拡充しました。このように基礎科目は、学生の自由で積極的な取り組みを可能にするフレキシブルな授業形態にその特色があります。

# 大学院 / 修士課程

Master Programs

美の中に真、  
技の中に智、  
学の中に人あり。

大学院修士課程は、博士前期課程としても位置づけられており、「広い視野に立って精深な学識を授け、芸術の各分野における創造、表現若しくは研究能力または芸術に関する職業等に必要の高度な能力を養う」ことを目的としています。

学部での研究・制作を基礎とし、さらに専門分野・専門領域のより高度な研究・制作を自らの研究テーマに沿って行います。

博士後期課程において求められる学識や能力の形成も視野に入れ、語学・論文作成能力の育成にも配慮したカリキュラムが編成されています。

1979年の大学院修士課程設置以来、他大学出身者や外国人留学生も多く在籍し、自由で開かれた制作・研究の場となっています。



「A PERFECTCIRCLE」  
木谷 洋

## ▶ 絵画専攻

日本画コースと油画コースの2つの研究分野があります。「日本画制作」、「油画制作」、「絵画技法演習」、「絵画修了制作」等の実技演習を中心にすえ、一方で、「絵画特論」をはじめとして、「美術史特講（日本、東洋、西洋）」や「美学・芸術学特講」など理論面でも充実しています。絵画における伝統的表現を基礎に、現代アートにも目を向け、自由な発想のもとで創造の世界を追求することで多様化する美術の展開に対応しています。

## ▶ 工芸専攻

陶磁、漆・木工、金工、染織の4コースがあり、金工と染織はさらに2分野に分かれ、6専門分野で構成されています。恵まれた環境のもと、技術的、造形的に、高度な研究ができるよう配慮されています。実技・演習に重点を置きつつ、理論的造形思考を高めるために「工芸特論」、「地域文化論」をはじめとして10理論科目が開講されています。常に伝統と現代を追求すること、素材に対する新たな挑戦が期待されています。

## ▶ 彫刻専攻

彫刻コースでは、塑像、木彫、石彫、金属彫刻を、環境彫刻コースでは、インスタレーション、コンセプチュアルな創造、ジャンルを横断した造形に対応する制作を行っています。理論科目では、都市空間、公共空間、自然空間の中での立体造形について考察し、多様化する現代美術の展開についても思考を重ねています。伝統的表現技法を追求しつつ、自由な発想のもと創造の世界を広げ個性的な作品を生み出すことを目指しています。

## ▶ デザイン専攻

視覚デザイン、製品デザイン、環境デザイン、ファッションデザインの4つのコースがあり、現代社会とデザインの様々なテーマに即した実践的な演習が設けられています。また研究の深化には造形の基礎と展開及び方法論が不可欠であるという認識のもと、理論科目も用意されています。博士後期課程への進学の道が開かれています。修了後は、研究者、教育者、ディレクター、デザイナーとして活躍しています。

## ▶ 芸術学専攻

美学、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史、工芸史の5つの研究分野をおき、演習・特講によって専門研究を行っています。また分野にとらわれない総合的・学際的関心を育成するための「芸術学特論」、美術大学の特色を生かした技法・素材研究のための「美術技法研究」なども設けられています。公開の研究発表を重ねながら学術的に高度なレベルの修士論文を制作し口頭発表することが課せられています。金沢の様々な美術館・博物館を活用した授業、国内外の実地調査、展示企画等の指導も行い、理論と実践を兼ね備えた美術の専門の研究者の育成を目指しています。修了生は学芸員をはじめとして広く美術の分野で活躍しています。博士後期課程進学、海外留学を選ぶ学生も多くいます。



「point A with the wind (風のある地点A)」  
竹内 佑未

# ファッション デザインコース

Fashion Comprehensive

クリエイティブでビジネス感覚を兼ね備えた感性豊かな技術力有る人材育成を目的とし、グローバルで幅広く実践的なカリキュラムによる各自の個性に合わせた教育をします。関連するデザイン専攻、工芸専攻及び他専攻の教育源を活用し、ものづくりに対する確かな技術力、発想力で新しいファッションシーンへの創造、産業界・地域文化への貢献を目指します。



左下：INORNING「高機能素材を応用したメンズカジュアルブランドの提案」山下 健人  
右下：ASHLILY「質実剛健なフェミニティの構築」小林 未来

## 教員

専任准教授	村山 祐子 (デザイナー)	専任准教授	平塚 聖子 (モデリスト)
教授	神谷 佳男 (スタイル画)	教授	寺井 剛敏 (広報・サイン)
教授	坂本 英之 (ファッション仕器)	教授	畝野 裕司 (ブランディング)
准教授	北村 賢哉 (ファッション仕器)	講師	稲垣 健志 (英語・デザイン論)

## 非常勤

クリエイティブディレクター・デザイナー	藤原 大	(財)Fビジネス・スクール名誉学長	尾原 蓉子
デザイナー	相澤 陽介	マーチャンダイザー	小松 左京
(株)ヤマトインターナショナル	今村 祐馬	ジャーナリスト	上間 常正
染色作家	川本 敦久	きものコーディネーター	江木 良彦
テキスタイルマーケティング&デザインナビゲーター	寺井 洋介	染織家	平木三重子
日本ファッション協会	山内 誠		

## 修了後の進路・活躍

(株)アキアゴラカイトック (株)アバンティ (株)エミュ・ラクサイ (株)オンワード樺山  
(株)カイトックインターナショナル (株)カラーマーク 兼松織維(株) (株)ケイ・ウノ  
(株)島精機製作所 スズキ(株) (株)丸和繊維工業 (株)メンズ・ピギ (株)ヤギコーポレーション  
(株)ヨシタテックス (株)フコール (株)CBCテレビ

本コースは、ファッションを生活文化創造の源、デザインの先端を切り開くものと位置付け、既修の専門分野やキャリアに関係なく、基本的な創造力・表現力があり、ファッションに対する関心と意欲のある学生を求めています。

カリキュラムには、アパレル、コスチューム、テキスタイル、ファッションアイテム等のものづくりと、ビジネス感覚やディレクション能力の育成を統合する内容を組み込んでいます。

ファッションの倫理的研究を深めると共に、最新のファッション感覚を業界の第一線で活躍しているデザイナー達から学ぶ事が出来ます。

修了生達は、ファッションデザイナー、パタンナー、服飾雑貨デザイナー、下着メーカーのインナーデザイナーとして社会に出て活躍しています。ネットショップでマーケティングから商品提案に関わり、ショップの位置付けに大きく貢献している修了生もいます。

# 大学院／ 博士後期課程

Doctoral Programs

実技と理論の総合  
地域と世界性  
伝統と現代

大学院博士後期課程では、「芸術に関する高度な創造及び表現の技術と理論を研究教授し、地域の美術工芸の深奥を究め、これを総合的に発展創造させ、自立して創作及び研究活動を行うために必要な高度の能力を備えた美術家及び研究者を養成すること」を目的とし、美術界の第一線で活躍する大学院専任教授が研究制作の指導を行い、理論系教授が博士論文指導を担当しています。

年2回公開の研究発表が行われるほか、「地域美術演習」、「造形総合研究」といった実技と理論を総合した学際的な科目も設けられ、学内外を研究の場とした比較的自由なカリキュラムのなかで研究が保証されています。

博士課程の学生たちは国内外で活躍する作家、研究者でもあり、海外などに積極的に研究活動の場を求めています。

1997年の設置以来、作家、デザイナー、研究者、国内外の大学教員など、精力的に活躍している41名の芸術博士を世に送り出してきました。

また特別科目等履修生の制度が整えられており、社会人・留学生にも開かれています。

尚、本院の博士後期課程では、以下4つの研究領域を設けています。

美術研究領域	日本画、油画（版画、壁画、絵画組成）、彫刻
工芸研究領域	陶磁、漆芸、金工、染織
環境造形デザイン領域	環境デザイン、ヴィジュアルデザイン、プロダクトデザイン
芸術学研究領域	美学、工芸史、日本・東洋美術史、西洋美術史

## 大学院専任教授

佐藤 一郎	(絵画)	河口 龍夫	(彫刻)
横山 勝彦	(芸術学)	橋本 真之	(工芸)
清水 忠男	(デザイン)		



「自画像」清水恭平



「視点の深度」柄澤健介



「光の呼吸series一壺」森岡希世子

# 美術工芸 研究所

Research Institute of Art

美術工芸研究所では、内外の美術工芸の学際的研究、工芸の継承・育成、地域の文化発展への助言・協力、美術工芸資料の収集・展示、教育研究に関する事業を行っています。

## ■ 最近の研究

平成の百工比照収集作成事業（平成22年度～）  
柳宗理デザイン調査研究（平成22年度～）

## ■ 資料収集と展示

美術・工芸・デザインに関する資料を約6,000点収集・管理し、古九谷をはじめとする陶磁器作品やガラス作品、絵画、金工手板見本などを展示公開しています。また市内尾張町に開設した柳宗理記念デザイン研究所で柳宗理氏のデザインや思想に関して調査研究を進め、その成果を学生・市民に向けて発信しています。

## ■ 教育と地域交流

「外国人工芸研修員制度」を設け、世界各地で伝統工芸に携わる研究者、教育者及び技術者を受け入れ、工芸技術の保存・伝承や産業の育成に関して研修の機会を提供するなど、グローバルな視点からの活動を行っています。

所長 田中 信行 教授（工芸科）



《牡丹小舟蒔絵香合》  
江戸時代（18世紀）  
幅12.2cm 奥行6.5cm 高4.6cm  
薄肉高蒔絵 など



「平成の百工比照—技と素材の一大標本、金沢の工芸振興の系譜—」展 会場風景  
平成27年5月 金沢21世紀美術館

## 教育研究センター

本学教員の研究を紹介する研究発表展の開催や、他大学との研究者間交流事業を行っています。また、本学学生に対する教育の充実をはかるため、教員の教育活動支援事業を実施しています。加えて、免許状更新講習を通じて、全国の美術教育の資質・能力の向上に貢献しています。

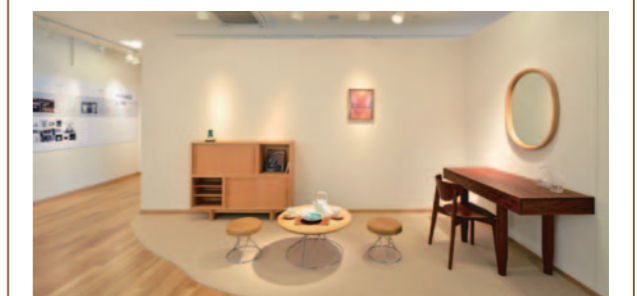
センター長 土井 宏二 教授（彫刻専攻）



## 柳宗理記念デザイン研究所

本学で長年にわたり、教鞭をとった世界的工業デザイナーである柳宗理氏（1915—2011）のデザイン思想やデザイン史における位置付けを明らかにする調査研究を進め、その成果を学生の教育に活かし、広く社会へ発信することを目的としています。

所長 村中 稔 教授（製品デザイン専攻）





# 社会連携 センター

Public Collaboration Center

金沢美術工芸大学は社会貢献を教育と研究に並ぶ大学の使命と位置づけ、地域連携・産学連携を通して積極的に活動を行っています。本学の持つ美術工芸分野に関する専門知識や技術、社会連携で得られた成果を広く社会に還元するとともに、産業や地域の活性化に貢献し、これらの活動を体験することで、より実践的に社会に貢献できる人材を育成します。

社会連携センター長 寺井 剛敏 教授（視覚デザイン専攻）

## 地域連携部門

本学のもつ人的資源やノウハウを活用し、地域社会や市民生活に対する芸術文化貢献事業などを通し、グローバルな視点を持ちながら地域の課題解決に取り組んでいます。

部門長 河崎 圭吾 教授（製品デザイン専攻）  
特任研究員 古場田 良郎

## 産学連携部門

地域産業や伝統文化の発展のため、企業、組合団体、他大学、研究機関、国や自治体などと連携し、新しい価値を創出する研究開発や、新たな産業・事業の振興を目指しています。

部門長 浅野 隆 教授（製品デザイン専攻）  
特任研究員 古場田 良郎

## 知財管理部門

大学で生まれた知的財産権の管理、活用や戦略立案、知的財産権を通じた社会との連携促進まで、産業界や地域社会と一体となって各連携部門の活動を支援、推進しています。

部門長 村中 稔 教授（製品デザイン専攻）  
特任研究員 古場田 良郎

## 問屋まちプロジェクト

金沢市問屋町の企業と金沢美術工芸大学の協働によって、アートやデザインによる新たな「モノやコト」を創造するプロジェクトです。アートフェア、講演会、ワークショップなどが定期的に行われ、街にアートが日常化することによって、街のイメージ向上や、地域の人のための満足度向上に役立ち、交流の場にもなっています。



## ホスピタリティアート・プロジェクト

金沢市立病院との連携による、医療分野におけるアートの潜在的な可能性を探求するプロジェクトです。スタンドグラス風の装飾を制作するワークショップや、待ち時間を豊かにする椅子展などを通して、患者、医療関係者、学生が同じ視点で時間を共有するコミュニケーションの在り方を研究しています。



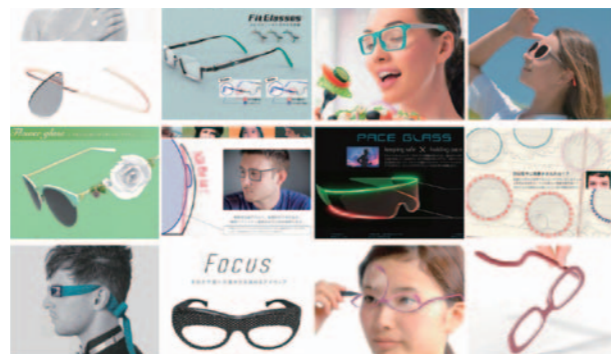
## 商業施設のオープニング企画・プロジェクト

2015年の北陸新幹線開業にともない、全国100店舗目の商業施設が金沢市の中心市街地にオープンすることになり、生活を彩る素敵な可能性を予感させるオープニング企画を行いました。環境デザイン専攻の学生によって、金沢の自然環境や文化、言い伝えなどの世界観を楽しく伝える空間デザインを実現しました。



## メガネのデザイン・プロジェクト

福井県眼鏡協会との連携によるプロジェクトで、類を見ない学生を主体とする「メガネ部」により長年続けられ、研究成果やノウハウが蓄積されています。メガネの世界的な産地である福井県鯖江市の世界トップクラスの技術、品質、信頼性と、学生ならではの創造性の融合により、産地の活性化にも貢献しています。



## 学生生活

College Life

## 五芸祭

金沢美大・東京藝大・愛知芸大・京都芸大・沖縄芸大の学生及び教職員が、毎年5月下旬当番大学に集い、体育行事を中心として互いの芸術文化活動の交流をはかる伝統的な催しで、既に62回の歴史を有します。スポーツクラブは順位を競い、全種目の総合得点で五芸祭優勝校が決まります。音楽部門を有する他大学を主体に、合同演奏会なども催されます。何よりも学生・教員にとって交流・情報交換ができる貴重な機会となっています。



## 生活支援

キャンパスライフに密着したさまざまな支援体制が整えられています。食堂や喫茶室はもちろん、画材を調達できる売店が用意されているほか、体の健康維持のための保健室やこころの相談を気軽にできる学生相談室が開設されています。また経済的な安定には、日本学生支援機構をはじめ各種の奨学金制度を利用することができるほか、事務局の窓口には、アルバイト情報や下宿情報が用意されています。個展やグループ展を開きたいという意欲のある学生には展覧会補助制度があり、留学を志す学生には、ヨーロッパの美術学校への派遣制度もあります。



## クラブ活動

本学には、体育系9、文化系18のクラブがあり、多くの学生が活動に参加しています。他大学におけるクラブ活動とは少し様相を異にし、のびのびとスポーツを楽しむ、同じ趣味の仲間が集うといったクラブが多く、学年、専攻を越えた友好の場となっています。



## 美大祭

毎年11月3日前後の祝祭日から7日の開学記念日にあわせて、自治会（美大祭実行委員会）の主催で美大祭を開催しています。学生の作品展示、講演会、仮装パレード、模擬店など多彩な催しです。学生・教職員相互の親睦はもとより、市民との交流を深めるお祭りです。美大生にとって、学生生活のなかで一番思い出に残る行事でもあり、同時に大学所蔵品の展示など、美大を市民に公開する絶好の機会でもあります。



## 学外研修

各専攻実習授業の一環として、年に4日～9日間の研修が実施されています。各専攻の研究内容、社会状況、学生事情等にあわせて計画・研修地が選ばれ、国内外の古美術研修、郊外写生授業、企業実習体験、アトリエ訪問などを行います。学生にとっては数少ない宿泊を伴う研修でもあり、近年は海外研修を実施する専攻もあり、学生が楽しみにしている授業のひとつです（旅行費用等は入学時に納入）。



## 国際交流

International Exchanges

世界を舞台に活躍する芸術家、デザイナー、研究者などの育成を目指しています。  
本学では、海外作家講演会、海外作家招聘事業、大学間交流などの国際交流活動を行っています。

国際交流センター長 神谷 佳男 教授（芸術学専攻）

## 海外作家講演会

海外のアーティスト、デザイナー、大学教員、研究者等による講演会です。各分野の専門知識や最新の情報・動向を得る機会を提供しています。



Yoshiko EBIHARA 氏

## 海外作家招聘事業

海外で活躍するアーティスト、デザイナー、大学教員、研究者等を本学に招聘し、普段の専攻の授業とは違ったものの見方や発想を育みます。また講演会も開催されます。



Michael HALL 氏

## 大学間交流

ヴァランド芸術学院（スウェーデン／イエーテボリ）、ゲント王立美術アカデミー（ベルギー／ゲント）、ナンシー国立高等美術学校（フランス／ナンシー）、ナント市圏高等美術学校（フランス／ナント）清華大学美術学院（中国／北京）、ニューヨーク州立大学バッファロー校（アメリカ／バッファロー）と交流協定を結び、学生・教職員の相互派遣を行っています。

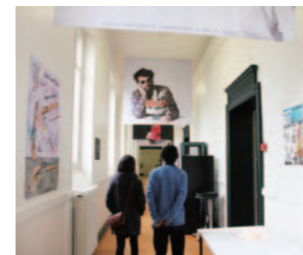


ヴァランド芸術学院 (スウェーデン)



ゲント王立美術アカデミー (ベルギー)

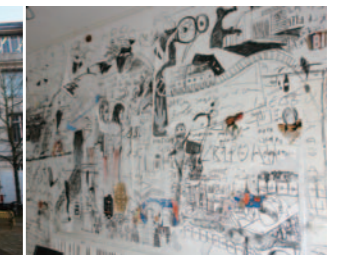
ゲントからの留学生



ナンシー国立高等美術学校 (フランス)



ナント市圏高等美術学校 (フランス)



清華大学美術学院 (中国)



劉潤福氏来学



ニューヨーク州立大学バッファロー校 バッファローとのテレビ会話 (アメリカ)

# 卒業後の 進路・活躍

Postgraduate  
Vocations

大学教育の成果の評価基準のひとつは、卒業生たちの進路状況です。本学は、1946年創立以来、たくさんの卒業生・修了生を送り出してきました。彼らは独立した作家・デザイナーとして、教育者として、また、学芸員として国際的なレベルで活躍しています。また民間企業においても、時代に即応した専門技術を大いに活かし、社会に貢献しています。日本のみならず世界各地における本学卒業生への高い評価は、金沢美術工芸大学の誇りとするものです。

下記は、近年の卒業生の主な進路・就職先です。

日本画	油 画	彫 刻	芸術学	視覚デザイン	製品デザイン	環境デザイン	工 芸
<p>日本画家 (日展・院展・創画会等各公募系列他) 大学教員 (京都市立芸術大学、佐賀大学、名古屋芸術大学、東北芸術工科大学、京都精華大学、宝塚大学、大阪成蹊大学、崇城大学、金沢学院大学、金城大学短期大学部 他) 全国 小中高教員 学芸員 (石川県立美術館、福井県立美術館、名古屋市美術館、MOA美術館、石川県立歴史博物館) 文化財保護修復関係機関各種 公立工芸研究機関 (九谷焼技術、輪島漆芸 他) 造形作家 工芸作家 (陶芸、染色、漆芸) 漫画家 イラストレーター 各種デザイナー 映像関係 繊維関係 印刷関係 報道関係 会社経営 流通、販売系 (受賞・発表) 日展 会員賞、特選 日春展 日春賞、奨励賞 全関西美術展 全関西賞 他 臥龍桜日本画大賞展 大賞 他 青垣日本画大賞展 大賞 他 現代美術展 美術文化大賞 他 文化庁在外派遣研修員 新風舎えほんコンテスト 優秀賞 アフタヌーン四季賞 (漫画)</p>  <p>竹内 昌二 2014年修了 「陽光の射す中で」 2014京展市長賞</p>  <p>嶋山 正樹 2012年卒業 「地を飛ぶ虫」 第47回 日春展 奨励賞</p>	<p>画家 版画家 美術作家 絵本作家 漫画家 中学・高校・大学教員 茨城大学、金沢学院大学 金城大学短期大学部 群馬大学、福井大学 宮崎大学、広島市立大学 金沢21世紀美術館 朝日印刷工業 (株) (有) アトリエパーク (株) アングローバル (株) ウェーブ (株) カラーマーク (株) ケイ・ウノ コーエーテックモータルディングス (株) ザ・グランドティアラ大阪 劇団四季 [四季 (株)] 任天堂 (株) (株) リンク・セオリー・ジャパン (株) AI (株) uk (他大学進学先) 東京藝術大学大学院 武蔵野美術大学大学院 ゲント王立美術アカデミー ナンシー国立高等美術学校 ナント市圏高等美術学校 パリ国立高等美術学校 (受賞・発表) 2012神通峡美術展 大賞、優秀賞 VOCA展 岡本太郎現代芸術賞 アートアワードネクスト2012 シェル美術展2014 トーキョーワンダーウォール2014、2015 第89回国画展 国画賞 (第84、85、86、87回) 第88回国画展 新人賞 (第85、86、87回) 第97回 光風会展 光風奨励賞 第92回 二科展 特選</p>  <p>今村 文 芸術植物園 (愛知県美術館) 卒業年：2008年修了</p>  <p>加茂 那奈枝 第34回上野の森美術館大賞展 2013年修了</p>	<p>彫刻家 造形作家 小学・中学・高校・大学教員 青山学院大学、金沢星稜大学 京都教育大学、東海大学 秋田公立美術大学 大阪成蹊短期大学、明星大学 愛知県立旭丘高校美術科 金沢市民芸術村 石川県立美術館 礪山美術館 金沢21世紀美術館 朝日印刷工業 (株) (有) 金沢舞台 劇団俳優座舞台美術 上越クリスタルガラス (株) スズキ (株) (株) 本田技術研究所 井波彫刻・野村 (株) ウィン・ディー (株) 俄 (株) 東京スタジオ (株) コトキワークス (株) 瑠璃光 (株) 桑山 (株) 北陸園芸 (株) 道具 (有) イズム (株) カブコン (株) ピア21 (株) ダウインチ (株) 杉田石材 (他大学等進学先) 愛知県立芸術大学 沖縄県立芸術大学 京都市立芸術大学 多治見市陶磁器意匠研究所 多摩美術大学 筑波大学 東京藝術大学 富山ガラス造形研究所 広島市立大学 (受賞・発表) 各団体展出品 現代日本彫刻展等コンペ出品</p>  <p>寄田 茜 2015年修了 「柔かなノイズ」 群馬青年ビエンナーレ2015入選</p>  <p>吉田 裕梨 2015修了 「柘榴の色」 金沢美術工芸大学 修了作品展</p>	<p>愛知県陶磁資料館 石川県七尾美術館 石川県能登島ガラス美術館 石川県立美術館 石川県輪島漆芸美術館 伊丹市美術館 うつつのみや妖精ミュージアム 金沢21世紀美術館 金沢市立中村記念美術館 金沢湯涌夢二館 金津創作の森 黒部市美術館 公益財団法人鍋島報効会 徴古館 静岡市美術館 女子美術大学歴史資料展示室 福井市自然史博物館分館 敦賀市立博物館 東京国立博物館 東北福祉大学 芹沢銈介美術工芸館 富山県立近代美術館 豊田市美術館 名古屋市美術館 福岡アジア美術館 古川美術館 北海道立釧路芸術館 ポーラ美術館 柳宗理記念デザイン研究所 山口市歴史民俗資料館 横須賀市美術館 横浜美術館 和歌山県立美術館 ヴァンジ彫刻庭園美術館 リンカーン群歴史協会(アメリカ合衆国) 京都造形芸術大学 東京藝術大学 福井大学 和光大学 公立および私立中・高等学校美術教員 (他大学進学先) 九州大学 群馬県立女子大学 慶應義塾大学 神戸大学 昭和女子大学 東京学芸大学 東京藝術大学 東京大学 東北大学 ニューヨーク大学 ロンドン大学</p>  <p>的場 久良 1993年卒業 石川県七尾美術館 学芸員</p>  <p>立浪 佐和子 2005年修士課程修了 横須賀美術館 学芸員</p>	<p>アイシン精機 (株) (株) アサツディ・ケイ (株) アドブレイン (株) ATA (株) NDCグラフィックス 花王 (株) (株) Camp KAZ (株) クリエイティブグループMAC (株) ケセラセラ (株) コーエーテックモゲームス コナミ (株) (株) サン (株) C.C.レマン (株) ジェー・シー・スパーク (株) 資生堂 (株) セガ ソニーネクスト (株) (株) ソニー・コンピュータエンタテインメント (株) 大広 (株) ティー・ワイ・オー (株) タカラトミー (株) たき工房 (株) TCD (株) DNPデジタルコム (株) テレビ朝日 (株) 電通 凸版印刷 (株) トヨタ自動車 (株) ニコニコ (株) (株) 日本デザインセンター 日本ビジネスアート (株) 日本郵便 (株) 任天堂 (株) (株) 博報堂 (株) 博報堂プロダクツ (株) バンダイ パナソニック (株) パナソニック (株) (株) ハル研究所 ビーコン・コミュニケーションズ (株) (株) 日立製作所 (株) マーベラス (株) 毎日新聞社 (株) マザーズ 三菱電機 (株) (株) リクルート (株) リュウズ (株) ロボット</p>  <p>江町 ゆかり 2004年卒業 株加納デザイン事務所 ジュニアマネジャー 化粧品・日用品・食品など幅広くパッケージ デザインを手掛ける</p>  <p>橋本祐 2004年卒 株電通 CRプランニング局 コミュニケーション・ プランニング・センターで、デザイン とアイデアの力で社会の課題にソリューション を生みだしています。</p>	<p>(株) アシックス アイシン精機 (株) いすゞ自動車 (株) NEC (株) (株) 岡村製作所 オリンパス (株) カンオ計算機 (株) 河津 (株) キャノン (株) (株) クボタ (株) ケイテック コクヨ (株) コニカミノルタ (株) サンデン (株) (株) GK京都 シチズン時計 (株) (株) シマノ シャープ (株) 伸晃化学 (株) スズキ (株) セイコーインスツル (株) ソニー (株) ダイキン工業 (株) (株) ダイハツ工業 (株) タニタ (株) デンソー (株) デプロ・インターナショナル・アジア (株) 東芝 トヨタ自動車 (株) トヨタ車体 (株) 豊田自動織機 (株) (株) ニコン 日産自動車 (株) (株) 任天堂 パイオニア (株) パナソニック (株) (株) バンダイナムコスタジオ (株) 日立製作所 (株) PFU 富士重工業 (株) ブラザー工業 (株) (株) ホンダアクセス (株) 本田技術研究所 マツダ (株) 三菱電機 (株) (財) 柳工業デザイン研究所 ヤマハ (株) ヤマハ発動機 (株) (株) リッチェル</p>  <p>折笠 弦 2008年卒業 医薬医療用ロボット VS-050S2 (株) デンソー</p>  <p>土田 康剛 1998年卒業 アクセラ/Mazda3 エクステリアデザイン マツダ (株)</p>	<p>(株) LIXIL (株) NHKアート (株) 遠藤照明 王子製紙 (株) (株) 岡村製作所 (株) オリバー 関西ベイント (株) ケイミー (株) (株) 五井建築研究所 コイズミ照明 (株) コクヨ (株) 小松精練 (株) コマニー (株) 三協立山アルミ (株) 劇団四季 [四季 (株)] ジューク (株) (株) 資生堂 スズキ (株) (株) スペース 大建工業 (株) 大日本印刷 (株) 大和ハウス工業 (株) 高島屋スペースクリエイツ (株) (株) タカショー (株) 丹青社 TOTO (株) (株) ナカダ 日本放送協会 (NHK) NEXCO西日本グループ (株) バンダイ 飛騨産業 (株) 福井県工業技術センター (株) 二上 (株) 保志 アルテマイスター (株) ミキモト装身具 (株) ヨーガンレール Los Angeles County Museum of Art (株) ワコール (受賞・発表) アートワークス・キーホルダーの内2012 シュウエムラ賞 第50回日本クラフト展 日本クラフト大賞・経済産業大臣賞 2012伊丹国際クラフト展 (酒器・酒壺杯) 奨励賞 (ユアイ賞) 第45回伝統工芸日本金工展新人賞 第34期国際瀧富士美術賞</p>  <p>大谷 寿実 2006年卒業 TOTO株式会社 システムキッチン (株) デンソー</p>  <p>沖津 真実 2008年卒業 キッサニア 資生堂 ビューティーサロン パビリオン</p>	<p>赤木明登うるし工房 アッシュ・ペー・フランス (株) (株) アックス 石川県工業試験場 石川県立九谷焼技術研修所 石川県立山中漆器産業技術センター 石川県輪島漆芸美術館 (株) INAX 大阪産業大学 鹿児島大学 上出長右衛門窯 京都丸紅 (株) グンゼ (株) (株) ケイ・ウノ 劇団四季 (四季 (株)) (株) 小西美術工芸社 (株) サンケツ セーレン (株) ソニーPCL (株) 高岡デザイン・工芸センター 竹内アレス (株) 田崎真珠 (株) 多治見陶磁器意匠研究所 (株) たち吉 TBカワシマ (株) (株) タカショー 東リ (株) 富山県繊維試験場 西川産業 (株) (株) ナカダ ニコニコ NIVAKA 白山陶器 (株) (株) バンダイ 飛騨産業 (株) 福井県工業技術センター (株) 二上 (株) 保志 アルテマイスター (株) ミキモト装身具 (株) ヨーガンレール Los Angeles County Museum of Art (株) ワコール (受賞・発表) アートワークス・キーホルダーの内2012 シュウエムラ賞 第50回日本クラフト展 日本クラフト大賞・経済産業大臣賞 2012伊丹国際クラフト展 (酒器・酒壺杯) 奨励賞 (ユアイ賞) 第45回伝統工芸日本金工展新人賞 第34期国際瀧富士美術賞</p>  <p>河野 太郎 2016年修了 「遠くへ」 第8回 佐野ルネッサンス銅金展 下野新聞社社長賞</p>  <p>橋本知成 2014年修了 「太陽の輪廻」 神戸ビエンナーレ2015現代陶芸コンペ ティション 準大賞</p>

## 附属図書館 Library

万巻の書籍から、達成できる研究がある  
1カットの挿絵から、ひらめく発想がある  
本の世界、そしてマルチメディアへ

「大学で美術を学ぶ」ということは、自分の表現や意識をいつも振り返り、自分なりのコトバやカタチを見つけていくことと言えるでしょう。そのアドバイザーとなる場所が図書館です。

本学附属図書館の歩みは、1946年金沢美術工芸専門学校の設立から始まりました。時代も貧しく、200冊程度の教員の持ちよりから図書館が始まったのです。

なんてほのぼのとした時代だったのでしょうか！その後、図書館棟は、1972年の現在のキャンパス移転に伴って新築され、旧キャンパスの図書館棟（現在の本多蔵品館）の設計をそのまま引き継いだ由緒ある建築物です。

2000年には現在のように増築され、快適な環境が用意されました。蔵書は美術・工芸・デザイン関係の図書を中心に、現在10万冊を超えています。国内外の貴重な画集や研究書の古典籍、江戸時代の和綴本も多くあります。

また美術の研究に供するため、東西の文学、歴史、哲学、宗教等の隣接分野の辞書、全集、研究書などの収書にも力を入れています。学生からの購入リクエストの制度もあります。

OPACシステムで簡単に蔵書検索ができて本へのアクセスは容易です、全国の大学間での相互貸借も可能です。

本だけではありません。ビデオやDVDなどの視聴覚資料には、伝統工芸から現代美術まで、また古典映画などの収書にも力を入れています。これらは館内のAVブースで自由に閲覧ができます。

パーソナルコンピュータもありますし、閲覧机には情報端末が装備されていますから、自分のノートパソコンを持ち込んでインターネットを利用することもできます。

図書の活用法や専門書の探索、またコンピュータの利用ノウハウなど、分からないことがあったら遠慮なく質問してください。図書館職員や教員ライブラリアンが丁寧に助言してくれるでしょう。

もちろん、友人どういで教え合うことも大切です。図書館はコミュニケーションのひろばです。

<http://www.kanazawa-bidai.ac.jp/tosyokan/>

### ■ 蔵書 (2016.3.31 現在)

図書 110,915 冊	雑誌 1,243 誌	視聴覚
和書 86,059 冊	和書 1,098 誌	3,157 タイトル
洋書 24,856 冊	洋書 145 誌	

### ■ 利用状況 (2015 年度)

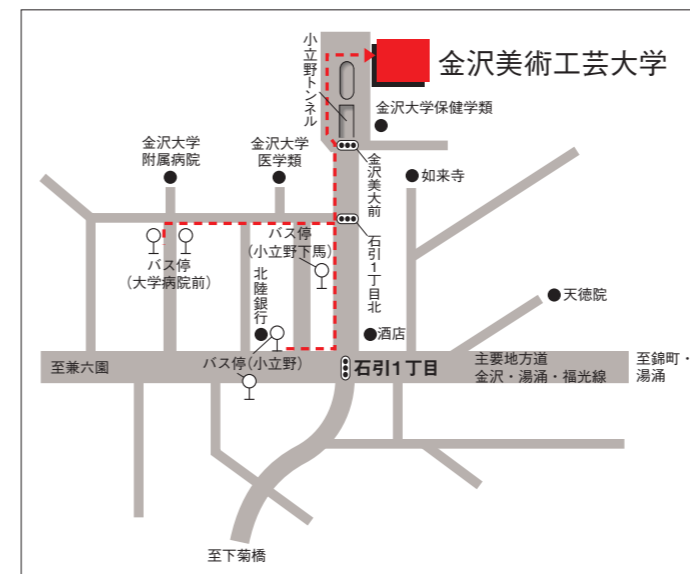
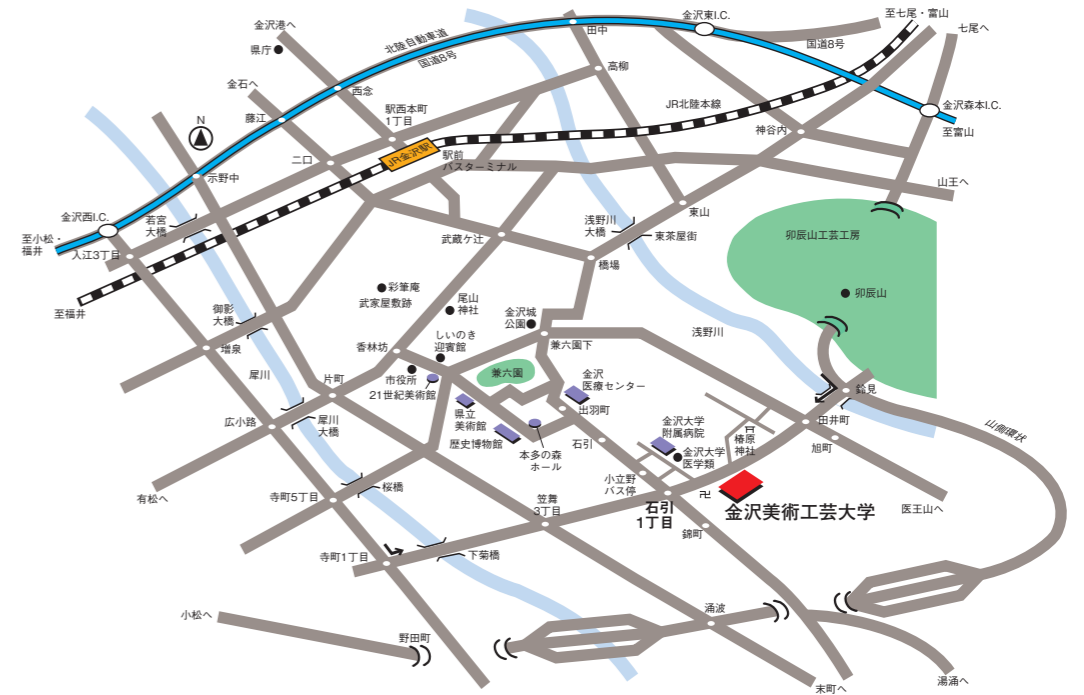
入館数	70,063 人
貸出冊数	13,608 冊
市民登録者数 (累計)	1,128 人



## 施設配置図 Campus map



## アクセス Map/Access



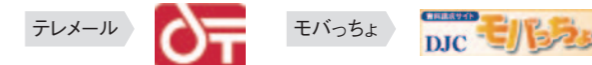
### 大学への交通アクセス

- 電車 JR 金沢駅下車
- バス 金沢駅東口バスターミナル7番のりば
  - ① 東部車庫行、① 金沢学院大学行、② 湯涌温泉行、② 北大薬学部行、② 北大太陽が丘行、⑥ 駒形行 (乗車約 25 分)
  - 金沢駅東口バスターミナル6番のりば
    - ③ 湯谷原行、④ 田上住宅行 (乗車約 25 分)
  - 金沢駅西口バスターミナル5番のりば
    - ⑩ 東部車庫行、⑩ 金沢学院大学行、⑬ 湯谷原行 (乗車約 25 分)
- いずれの場合も小立野バス停下車 (徒歩約 8 分)
- JR 金沢駅から約 20 分
- タクシー
- 自動車 北陸自動車道 金沢西 IC から約 25 分 金沢森本 IC から約 15 分
- 航空機 小松空港から リムジンバス (乗車約 40 分) 金沢駅下車 (乗り換え、東・西口から電車の場合に同じ)

### 資料請求方法

#### インターネットで 請求する

本学ホームページにアクセス <http://www.kanazawa-bidai.ac.jp/>  
下の2つのいずれかよりご請求ください。



※請求方法は移動後のページ内の指示に従ってください。

#### テレメールで 請求する

24 時間受付・自動音声応答電話  
TEL 050-8601-0101

PC・携帯電話 <http://telemail.jp>  
※携帯電話で QR コードを読み取り、アクセスした場合は資料請求番号は不要です。



資料名	資料請求番号	送料
一般募集要項	583050	215 円
推薦募集要項	583060	215 円
入学者選抜要項	583070	120 円

※ 2～3 日でお届けします。

#### モバっちょで 請求する

PC・携帯電話 <http://djcm-b.jp/kanazawa-bidai2/>



※フィーチャーフォン払い、スマートフォン払い、クレジットカード決済、コンビニ払いからお支払い方法を選択できます。

▶請求方法についてのお問い合わせ先  
大学情報センター株式会社 モバっちょカスタマーセンター  
TEL 050-3540-5005 (平日 10:00～18:00)



---

# 金沢美術工芸大学

KANAZAWA COLLEGE OF ART

---

公立大学法人 金沢美術工芸大学

〒920-8656 石川県金沢市小立野5丁目11番1号  
TEL 076-262-3531 FAX 076-262-6594

---

5-11-1 Kodatsuno Kanazawa Ishikawa  
920-8656 Japan  
TEL +81-76-262-3531 FAX +81-76-262-6594  
<http://www.kanazawa-bidai.ac.jp>

